

5年後、あなたの会社は生き残れますか？

ビジネスで負けないIT人材の戦略的育成

～ iコンピテンシ デクショナリの活用～



一般社団法人iCD協会

iCD協会について

iCD協会設立の経緯

2012年1月
「独立行政法人の制度及び組織の見直しの基本方針」閣議決定
⇒IPAよりスキル標準に掛かる業務を全面的に民間に移行へ

2014年1月～ IPA主催「スキル標準の在り方に関する研究会」(全4回)
「スキル標準促進協議会設立に関する準備会」(全2回)
「スキル標準促進のためのiコンピテンシディクショナリ活用情報共有会」(全3回)

2016年度
「iCD活用推進に係る新協会設立に向けたタスクフォース」(全10回)
⇒IPAより委嘱、SSUG・CSAJ・FISA参画

2017年度「iCD協会設立に向けた委員会」
(委員会全5回/WG全10回)
⇒IPAより委嘱、SSUG・CSAJ・JUAS・JASA・ITCA・iSRF
(FISAオブザーブ) 参画

プロモーション活動
(iCD説明会/カンファレンス)

活用企業の拡大
(iCD活用ワークショップ/コンサル)

iCD活用企業認証制度
(2015年～SSUG・CSAJ・FISA)

iCD普及促進活動



一般社団法人iCD協会
2018年2月1日 設立登記
2018年4月1日 活動開始

設立趣旨

現代は、クラウド・モバイル・SNS・サイバーセキュリティ・IoT・AIなど、新たなITサービスやインフラ、脅威が台頭し、企業を取り巻くビジネス環境はめまぐるしく変化、従前のビジネスモデルは逐次見直していかなければならない時代が到来しております。

このような厳しく新しいIT社会を生き抜くため、独立行政法人情報処理推進機構（IPA）は、2014年に「i コンピテンシ ディクショナリ」（以下、iCD）を公開いたしました。

このiCDは、時代の移り変わりを的確にとらえ、企業の原動力が常に人材であることに注視しながら、毎年進化を続けており、自社の業務に必要な人材を正確に把握し、今後の企業成長に沿った人材育成の指針としての極めて有効なツールとして、これまで数多くの企業に活用されて参りました。

すでにiCDを活用している企業の活動を幅広く支援するとともに、これからiCDを活用しようとしている企業への利用促進を目的に、新たに「iCD協会」を設立いたします。

iCDには、自社の現況（AsIs）の把握と成長（ToBe）に必要なタスク（業務）を整理した「タスクディクショナリ」と、その業務を遂行する際に必要なスキル（能力）を整理した「スキルディクショナリ」の2つの有用なコンテンツを中心に成り立っております。

「iCD協会」では、これらのコンテンツを変貌するIT時代に合わせて、現場のニーズも反映しながら随時ブラッシュアップすることにご貢献し、iCDを活用する企業を全力で支援して参ります。そして、結果として日本の産業を活性化し、地方も含めてひとつひとつの企業を元気にしていくことを使命と考えております。

1.iCDの認知度を上げ、企業による実際の活用の機会をつくる

カンファレンスや説明会等により国内でのiCD認知度の向上を図るとともに、iCD活用ワークショップ等の実活用の機会を提供して幅広いiCDのファン作りを行う。

2.「iCD活用企業認証制度」を運営し、iCD活用企業の拡大を図る

iCDを活用している企業（以下、iCDユーザー企業）同士の情報交換を実施し、企業同士のビジネスマッチングや人材交流を図り、iCDユーザー企業の発展を支援する。また海外展開をしている企業やこれから展開を検討している企業に対して、グローバルなIT技術者育成や人事評価等の企業活動の支援を行う。

3.iCDを活用している企業の発展を支援する

iCDを活用している企業同士の情報交換を実施し、活用コンサルテーション等のサポートを実施する。また、企業同士の人材交流やビジネスマッチングを図り、活用企業の発展を支援する。

4.iCDコンテンツの内容を更新する

企業活動の業務（仕事）を整理したタスクディクショナリと、タスクを遂行するために必要な能力を整理したスキルディクショナリの内容を、内外の環境の変化やユーザーニーズに応じて逐次ブラッシュアップし、グローバル標準として高度な内容を維持する。

5. iCDシステムの活用を推進する

現在IPAが提供しているiCDシステムに対し、機能追加や操作性の向上等、カスタマイズを実現し、iCDシステムの活用を促進する。

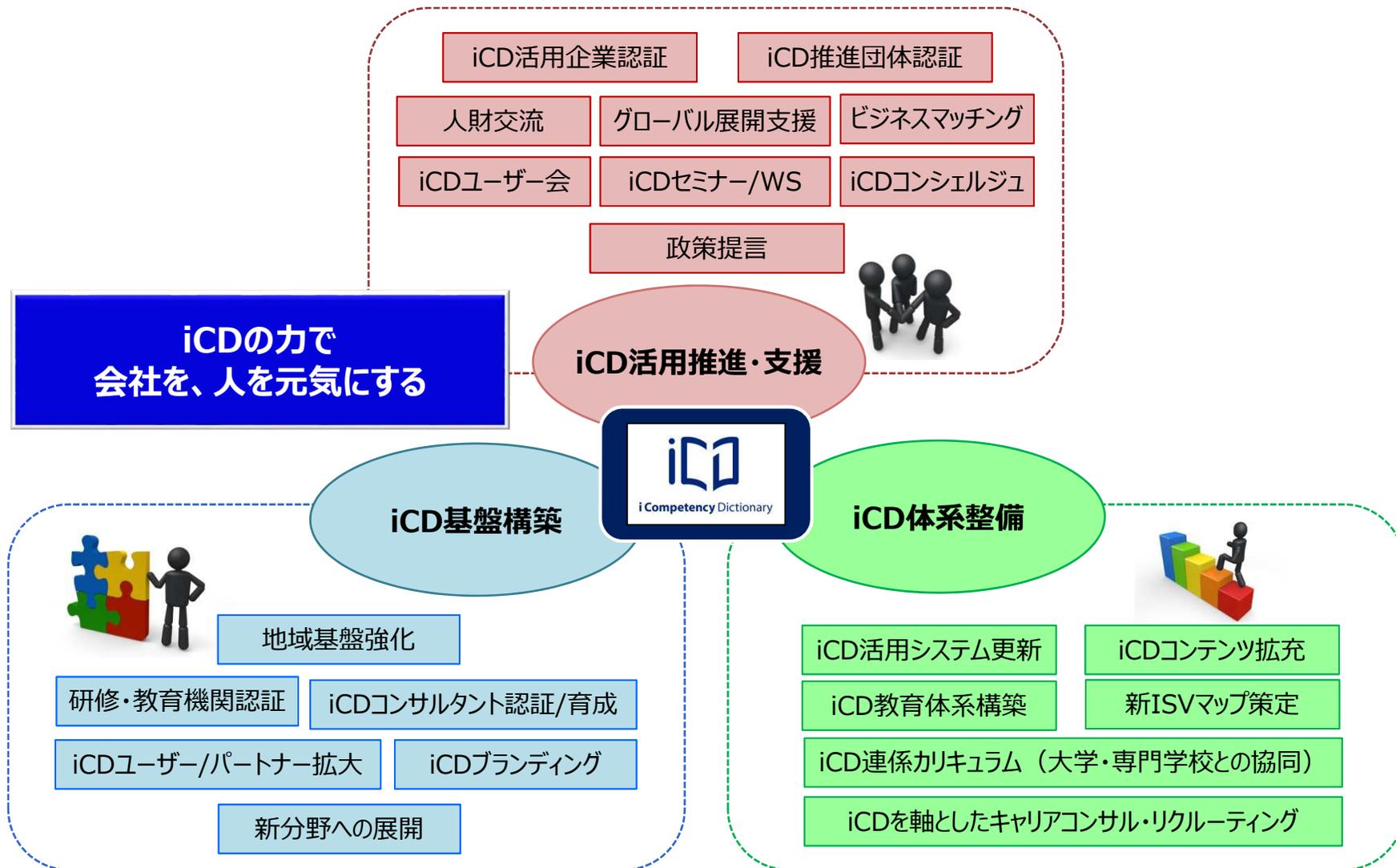
6. iCDを活用した教育体系を確立する

学校関係および教育ベンダー等と協力し、iCDを活用した人材育成施策を実行する体制を確立する。
また、それらの機関をiCDエディタラーとして認証し、カリキュラムや研修手法を研究する。

7. iCDの海外展開を促進する

海外展開をしている企業や、これから展開を検討しているグローバル企業に対して、iCDを用いて海外におけるIT技術者育成や人事評価等の支援を行う。

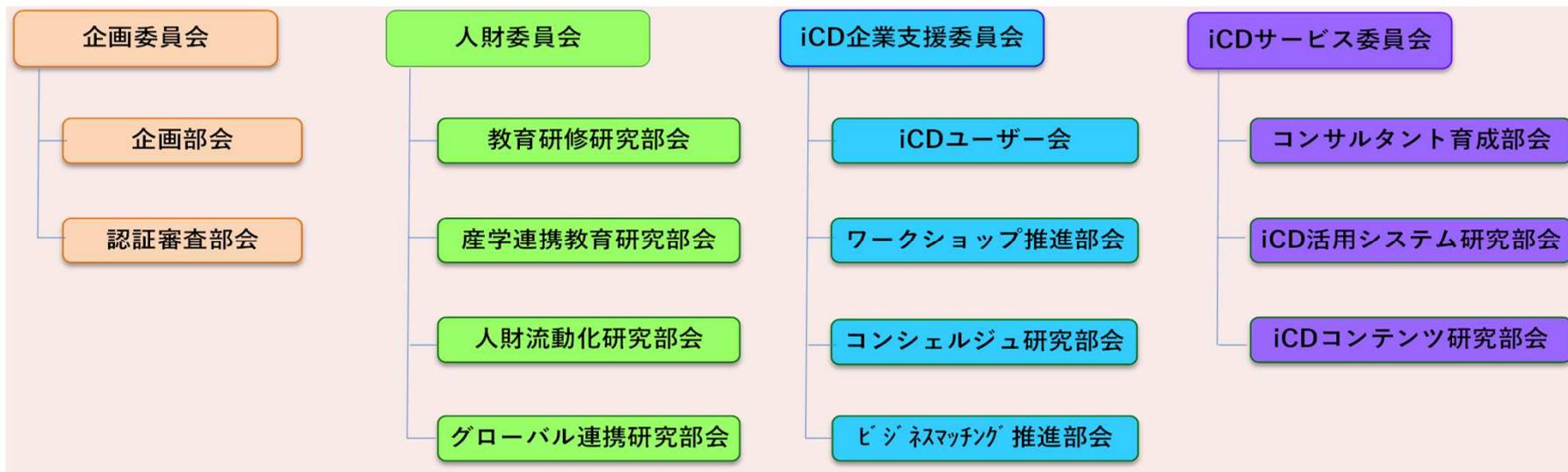
事業ビジョン



活動内容 (案)

【コンセプト】

4つの委員会運営を柱に事業の展開を図る



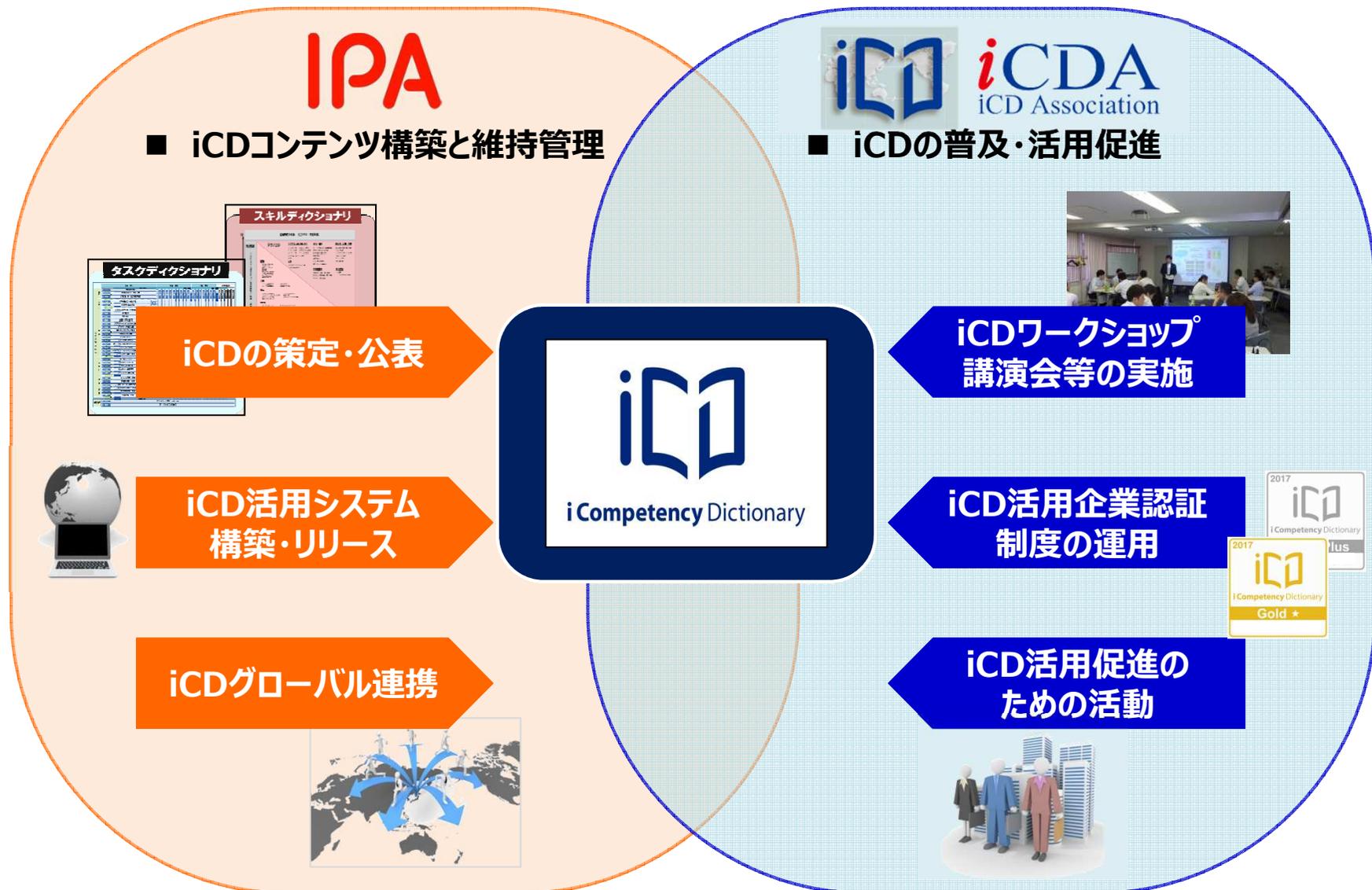
企画運営と認証活動
…企画委員会中心

iCDユーザーの拡大と地域貢献
…iCD企業支援委員会中心

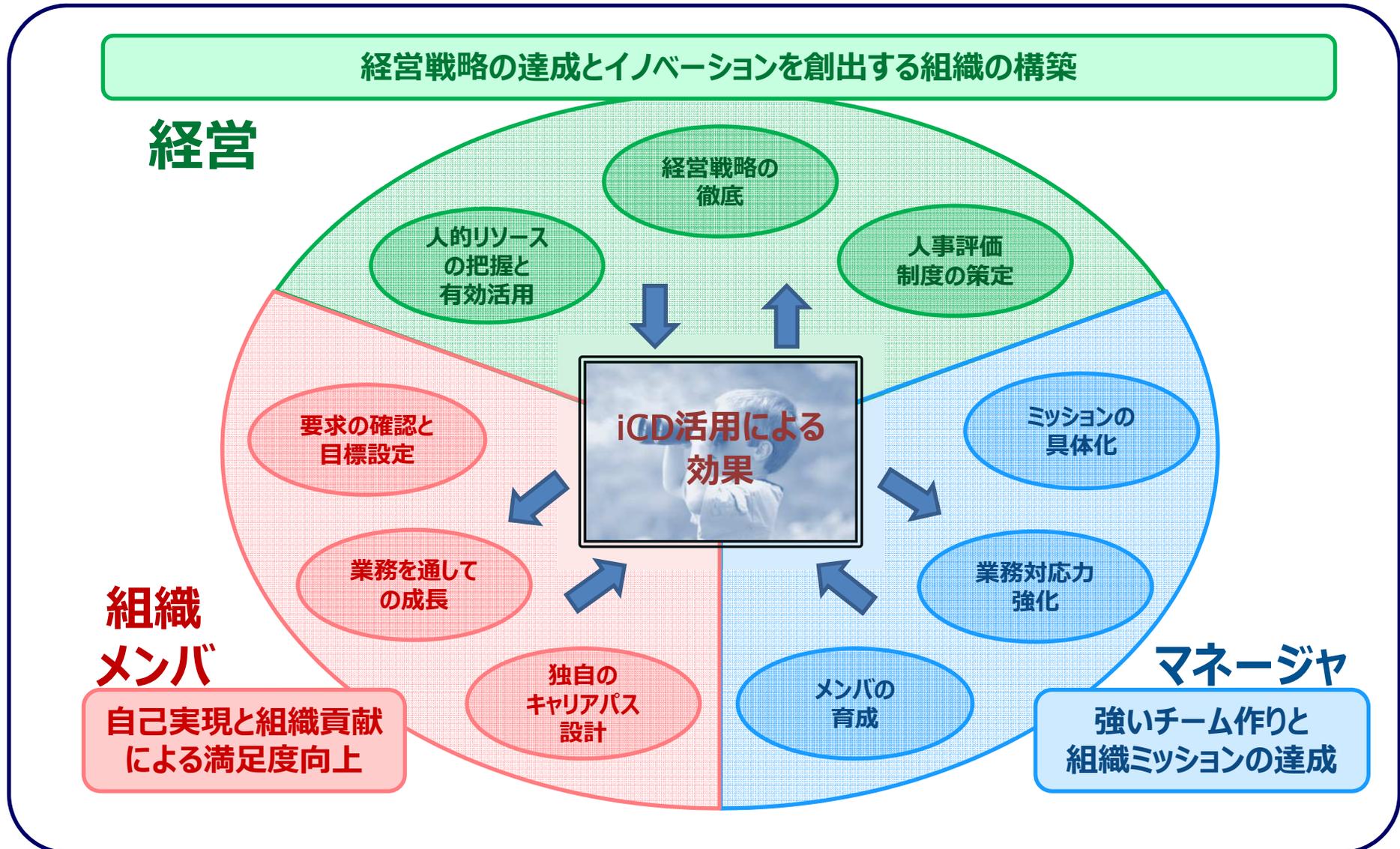
新規事業の創出
…人財委員会中心

ユーザーサービスの充実
…iCDサービス委員会中心

IPAと協会の関係



ついに
経営課題の解決方法見つかる！



なぜ経営戦略を達成できないのか？

自社ビジネス目標（経営戦略）



各組織のミッション

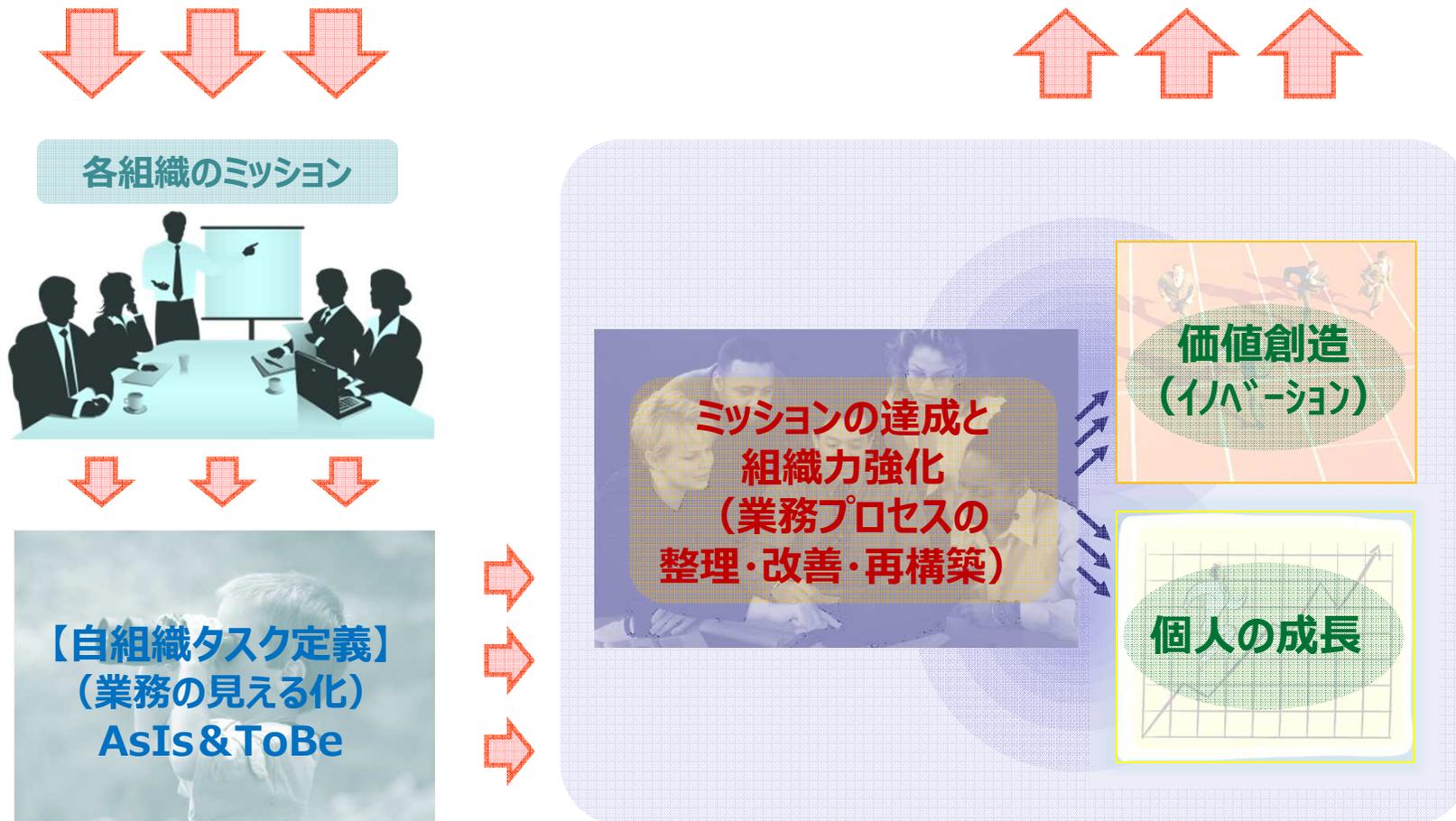


ミッションの達成と
組織力の強化

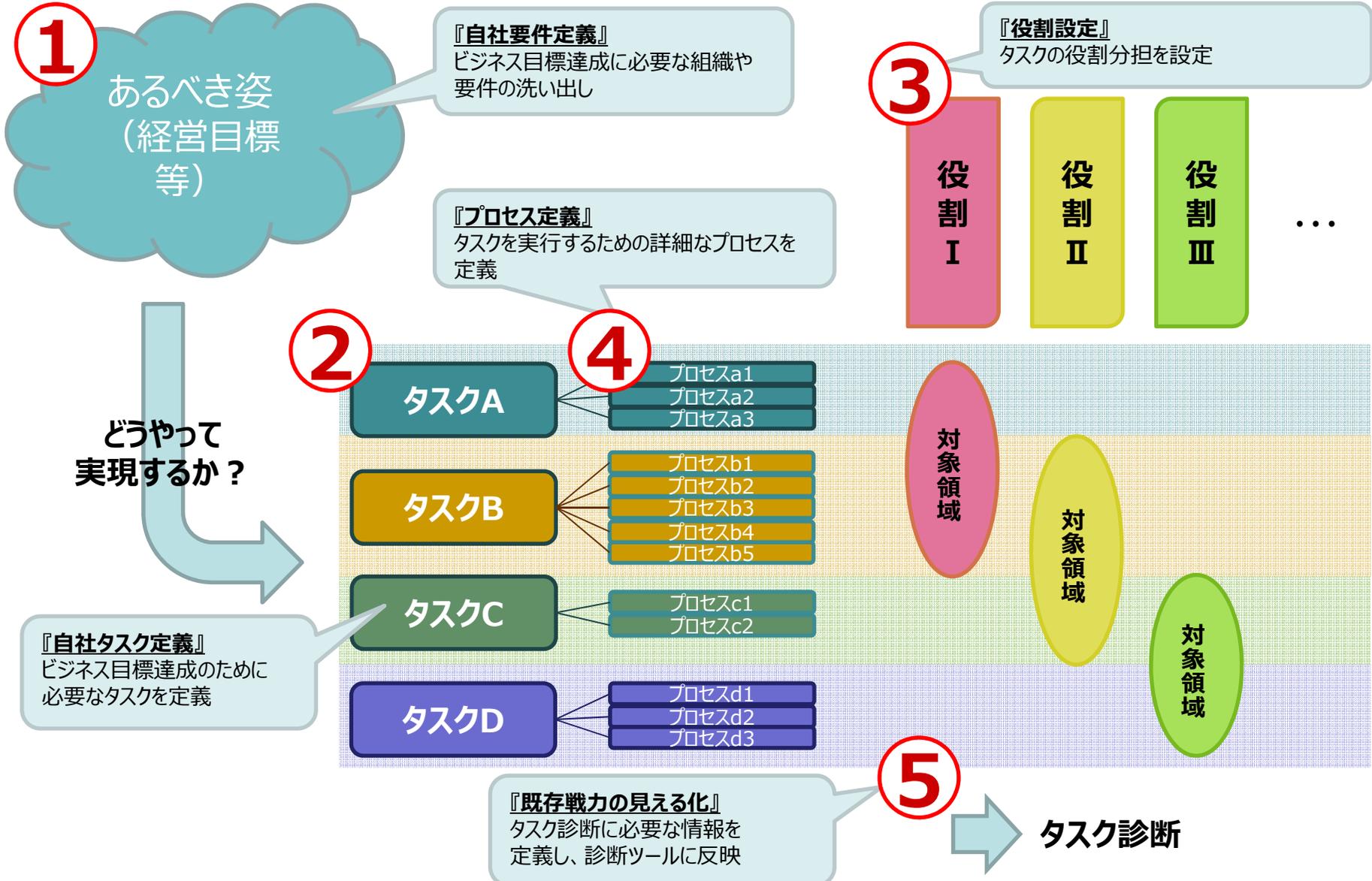


経営課題達成のキーポイント

自社ビジネス目標（経営戦略）



経営課題達成のために必要な準備



**経営課題達成！
まず、自社タスクを定義しよう！**

頼れるサポーター「スキル標準」

	情報処理技術者試験	ITスキル標準 (ITSS)	組込スキル標準 (ETSS)	情報システムユーザースキル標準 (UISS)	共通キャリア・スキルフレームワーク (第一版・追補版) (CCSF)
公開時期	1969年	2002年12月	2005年5月	2006年6月	2008年10月・2012年3月
実施主体	IPA/情報処理技術者試験センター (JITEC)	IPA/ITスキル標準センター	IPA/ソフトウェア・エンジニアリング・センター (SEC)	日本情報システムユーザー協会 (JUAS)	IPA/HRDイニシアティブセンター
目的・位置づけ	産業界の情報化人材に必要な知識、技術、能力を明確にし、業務を遂行するために必要な知識、技術、能力を保有しているかを明確化する。	各種IT関連サービスの提供に必要とされる能力を明確化・体系化した指標であり、産学におけるITサービス・プロフェSSIONALの育成・教育のために有用な共通枠組み。	組込ソフトウェア開発に関する最適な人材育成、人材の有効活用を実現するための指標。	情報システムを活用するユーザー企業/組織において必要となるスキルをシステムの企画・開発から保守・運用・廃棄に係るまでのソフトウェアライフサイクルプロセスに基づき体系化した指標。	3つのスキル標準について、人材類型と人材像を共通で定義、試験のレベルと紐づけたもの(第一版) 3つのスキル標準をタスク・モデル、スキル・モデル、人材モデルで整理しなおし、共通化したもの(追補版)
主とする対象	ベンダー、ユーザー	ベンダー	組込エンジニア	ユーザー	ベンダー/ユーザー/組み込みエンジニア
切り口	人材(試験職種)	人材(キャリアフレームワーク)	技術(スキルフレームワーク)	組織機能と業務	タスク・スキル・人材像
構造	<p>各試験区分毎のスキル標準</p>	<p>スキルディクショナリー</p>	<p>キャリアフレームワーク</p>	<p>キャリアフレームワーク</p>	<p>タスクモデル 人材モデル Examination スキルモデル 知識体系 (BOK) Knowledge</p>

3 スキル標準の改訂と展開

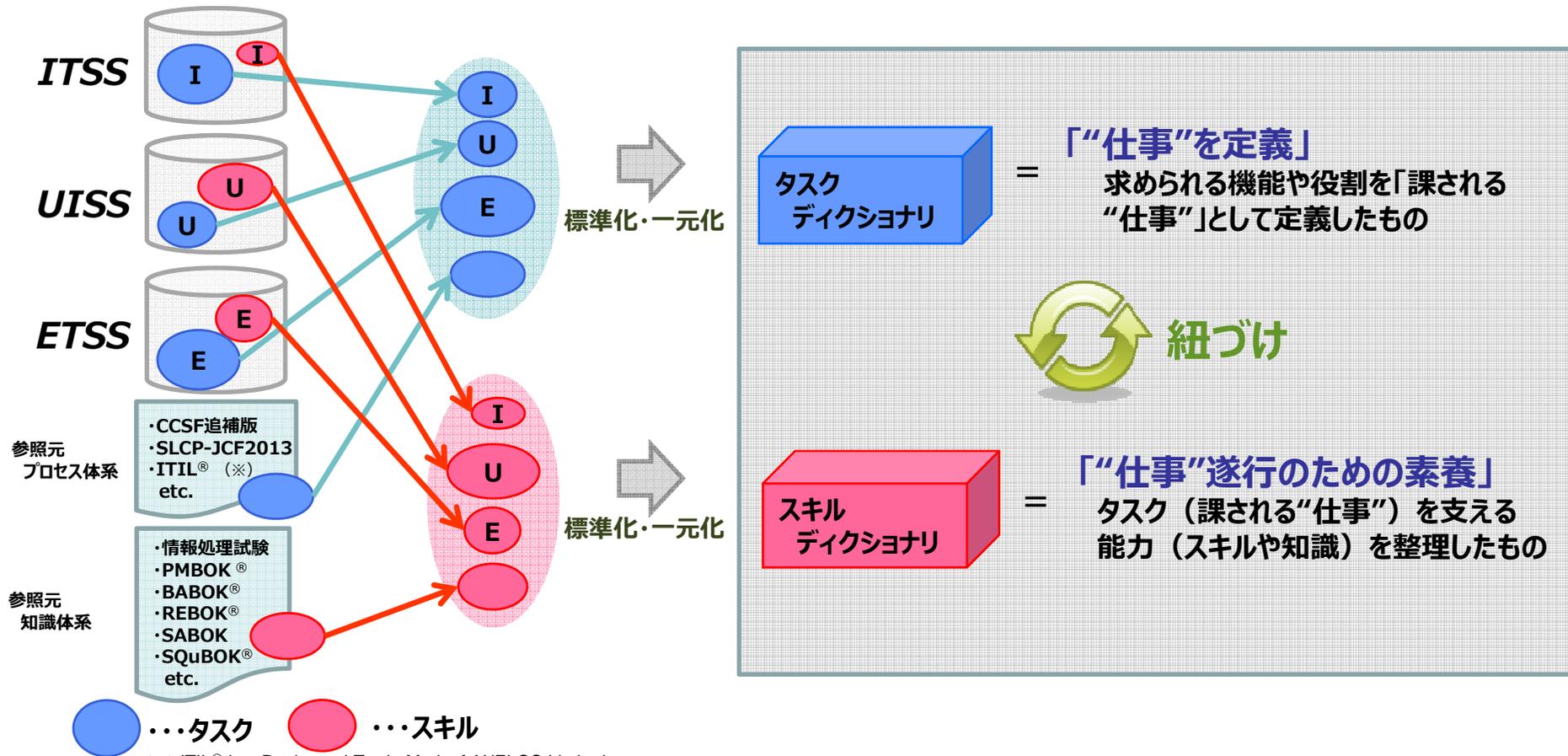
2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015 ~



2017年6月 i コンピテンシ ディクショナリ2017 公開 !

i コンピテンシ ディクショナリ (iCD) とは

i コンピテンシ ディクショナリ (iCD) は、企業においてITを活用するビジネスに求められる業務 (タスク) と、それを支えるIT人材の能力や素養 (スキル) を「タスクディクショナリ」、「スキルディクショナリ」として体系化したもの。
 IPAは、2014年7月31日にiCDの試用版を、2015年6月30日にその正式版となる「iCD2015」を公開。2016年6月6日に「iCD2016」、同年11月7日に「iCD2016V2」、2017年6月20日に「iCD2017」を公開。

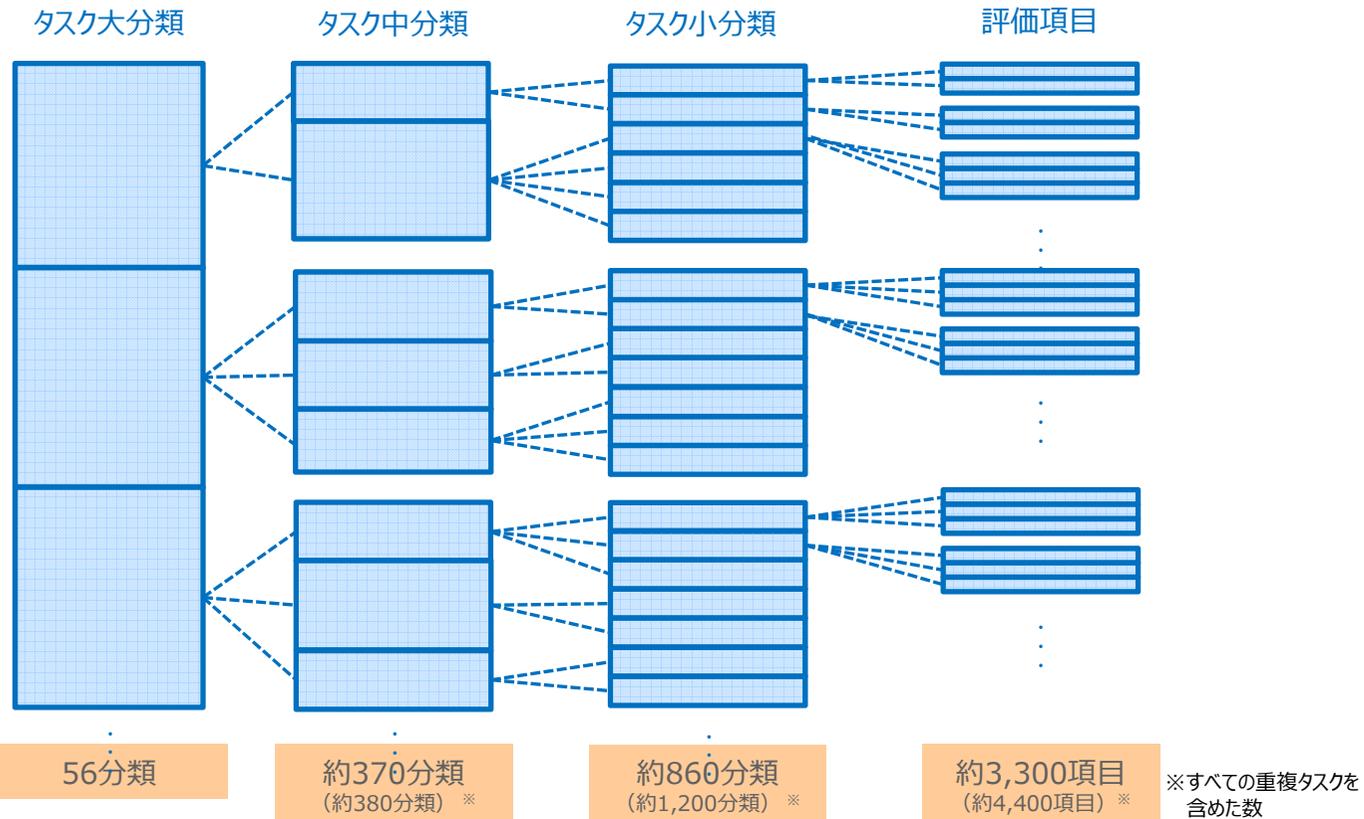


(※) ITIL® is a Registered Trade Mark of AXELOS Limited

タスクディクショナリ（1）

定義

「課される“仕事”」：組織、個人に求められる機能や役割。4階層のモデルで整理、体系化したもの



特色

- 1) ITビジネスにかかわる主要プロセス体系（右欄：参照元）との参照性を高め、MECEに整理
- 2) ビジネスモデル、業態、開発手法等の観点で、必要なタスクセットをモデル化（タスクプロフィール）
- 3) 個人がタスク遂行実績を評価する項目（評価項目：約3,300項目）を付加
- 4) ニーズに対応しタスクを強化（協力：CSAJ、FISA、KSK）

参照元

- ・CCSF（第一版・追補版）
- ・SLCP-JCF 2013
- ・ESPR Ver.2.0
- ・ITIL® 2011 Edition ほか

タスクディクショナリ (3)

タスクプロフィール × タスク 対応表 (抜粋)

タスク大分類	タスク中分類	タスク小分類	ビジネスタイプ別								開発対象別				開発手法別		
			システム受託開発 A-020	ソフトウェア製品開発 A-030	組み込みソフトウェア開発 A-040	Webサイト構築・運用 A-050	システム運用サービス (運用業務委託) A-060	システム運用サービス (データセンタ運営) A-070	ITコンサルティング A-080	アプリケーションシステム 甲-010	基盤システム 甲-020	ソフトウェア製品 甲-030	組み込みソフトウェア 甲-040	Webサイト 甲-050	ウォーターフォール Q-010	アジャイル Q-020	パッケージ利用 Q-030
事業戦略把握・策定支援	要求(構想)の確認	経営要求の確認 経営環境の調査・分析と課題の抽出						◎									
	新ビジネスモデルへの提言	業界動向の調査・分析 ビジネスモデル策定への助言						◎									
	事業戦略の実現シナリオへの提言	実現可能性の確認 全社戦略の展開における活動・成果指標の設定 課題とリスクの洗い出し 起算予算の算出						◎									
IT製品・サービス戦略策定	市場動向の調査・分析・予測	市場機会の発見と選択 ターゲット市場のビジネスチャンス分析	◎	◎	◎	◎	◎	◎									
	IT製品・サービス戦略の策定	ビジネス機会の分析 新規製品・サービスの企画 既存製品・サービスのロードマップ更新	◎	◎	◎	◎	◎	◎									
IT戦略策定・実行推進	基本方針の策定	現状分析・環境分析 IT基本方針の策定						◎									
	IT化計画の策定	IT中期計画の作成	IT中期計画の作成						◎								
		IT基盤戦略の策定	IT基盤戦略の策定						◎								
		事業部門のIT化計画の作成	事業部門のIT化計画の作成						◎								
	IT戦略実行マネジメント	IT戦略の理解とプログラムの定義 プログラム戦略マネジメント 実行組織の確立 モニタリング アセスメントマネジメント プログラムリスクへの対応						◎									
システム企画立案	システム化構想の立案	システム化構想基本方針の策定	◎	◎	◎	◎	◎	◎									
		現行業務・システムの調査分析	◎	◎	◎	◎	◎	◎									
		新業務の全体像把握と評価指標の設定	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎								
		投資規模の策定	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎								
	システム化構想の成案化	システム化構想の成案化	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎								
システム化計画の策定	システム化構想の支援 システム化計画におけるプロジェクト計画の策定	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎									

組み合わせにより、目的により近い
タスクセットを探すことが可能に

タスクディクショナリ（４）

タスクプロフィール（１）

- 用途 ビジネスタイプ別
組織の立場（ユーザ、ベンダ）や業態によって必要なタスクを識別するもの
- 用途 開発対象別
アプリケーション、インフラ、ソフトウェア製品等、開発、構築、保守、運用の対象物の種類によって必要となるタスクを識別するもの
- 用途 開発手法別
ウォーターフォール、アジャイル等の開発・構築の手法や手段の種類によって必要となるタスクを識別するもの
- 用途 新ビジネス別
新しいビジネスや業務を担う人材に必要なタスクを識別するもの

ビジネスタイプ別	開発対象別	開発手法別	新ビジネス別												
<ul style="list-style-type: none"> ▶ 自社向け情報システム開発・保守・運用 ▶ システム受託開発 ▶ ソフトウェア製品開発 ▶ 組み込みソフトウェア開発 ▶ Webサイト構築・運用 ▶ システム運用サービス（運用業務委託） ▶ ITコンサルティング ▶ システム運用サービス（データセンタ運営） 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ アプリケーションシステム ▶ 基盤システム ▶ ソフトウェア製品 ▶ 組み込みソフトウェア ▶ Webサイト 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ウォーターフォール ▶ アジャイル ▶ バックゲージ利用 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ クラウドビジネスクリエイト ▶ クラウドビジネスアーキテクト ▶ クラウドアーキテクト ▶ ビジネスアナリスト ▶ データ活用システムエンジニア ▶ データ解析スペシャリスト 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ コンサルタント（情報リスクマネジメント） ▶ ITアーキテクト（セキュリティアーキテクトチャ） ▶ セキュリティアドミニストレータ（情報セキュリティアドミニストレータ） ▶ セキュリティアドミニストレータ（ISセキュリティアドミニストレータ） ▶ セキュリティアドミニストレータ（インシデントハンドラ） 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 情報セキュリティマネジメント ▶ ITスペシャリスト（セキュリティ） ▶ セキュリティマネージャ（組み込みセキュリティ） ▶ セキュリティアドミニストレータ 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ プログラムマネージャ 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ビジネスモデルデザイン ▶ パリユークリエイト ▶ サービスクリエイト 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ IoTプラットフォーム ▶ IoTアーキテクトチャ ▶ IoTデバイス ▶ IoTネットワーク ▶ IoTサーバ 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ IoTサーバ 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ IoTネットワーク ▶ IoTデバイス ▶ IoTアーキテクトチャ ▶ IoTプラットフォーム ▶ サービスクリエイト ▶ ビジネスモデルデザイン ▶ パリユークリエイト ▶ プログラムマネージャ ▶ 情報セキュリティマネジメント ▶ ITスペシャリスト（セキュリティ） ▶ セキュリティマネージャ（組み込みセキュリティ） ▶ セキュリティアドミニストレータ ▶ セキュリティアドミニストレータ（インシデントハンドラ） ▶ セキュリティアドミニストレータ（ISセキュリティアドミニストレータ） ▶ セキュリティアドミニストレータ（情報セキュリティアドミニストレータ） ▶ ITアーキテクト（セキュリティアーキテクトチャ） ▶ コンサルタント（情報リスクマネジメント） ▶ データ活用システムエンジニア ▶ データ解析スペシャリスト ▶ ビジネスアナリスト ▶ クラウドアーキテクト ▶ クラウドビジネスアーキテクト ▶ クラウドビジネスクリエイト ▶ バックゲージ利用 ▶ アジャイル ▶ ウォーターフォール ▶ Webサイト ▶ 組み込みソフトウェア ▶ ソフトウェア製品 ▶ 基盤システム ▶ アプリケーションシステム ▶ システム運用サービス（運用業務委託） ▶ Webサイト構築・運用 ▶ 組み込みソフトウェア開発 ▶ ソフトウェア製品開発 ▶ システム受託開発 ▶ 自社向け情報システム開発・保守・運用 	クラウド	データ利活用	情報セキュリティ	IT融合	IoT
										↓	プログラムマネジメント				

タスクディクショナリ（5）

タスクプロフィール（2）

■用途 役割別

自組織の役割定義（タスクの分担）を定める際に参考となる、役割毎のタスクセット（タスクの集合体）。

役割別			
<ul style="list-style-type: none"> ▶ ITストラテジプランニング ▶ ビジネスリレーションシップマネジメント ▶ テクニカルマネジメント ▶ ビジネスストラテジプランニング ▶ 情報ストラテジプランニング 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ビジネスアナリシス ▶ プロジェクトマネジメント ▶ ITアーキテクチャデザイン ▶ アプリケーションデザイン ▶ テクニカルエンジニアリング ▶ ITサービスマネジメント ▶ Webプロデュース 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ストラテジックプランナ ▶ ビジネスプロデューサ ▶ プロジェクトディレクタ ▶ システムコンサルタント ▶ ITアーキテクト ▶ ITマイスタ(ネットワーク) ▶ ITマイスタ(データベース) ▶ ITマイスタ(セキュリティ) ▶ ITマイスタ(プラットフォーム) ▶ ITマイスタ(アプリケーション) ▶ ソリューションセールス ▶ システムコンシエルジュ 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ プログラムマネジメント ▶ 情報セキュリティ統括 ▶ DR/BCP ▶ リスクマネジメント ▶ システム監査 ▶ 人材開発 ▶ アウトソース統括 ▶ ラインマネジメント ▶ マーケティング ▶ セールス ▶ 総務 ▶ 人事 ▶ 経理・財務 ▶ 法務 ▶ 購買・調達 ▶ 監査 ▶ 教育・研修
戦略的職務	企画・開発・運用職務	中小規模ビジネス推進	特定職務

タスクディクショナリ（6）

タスクプロフィール（3）

■用途 専門領域

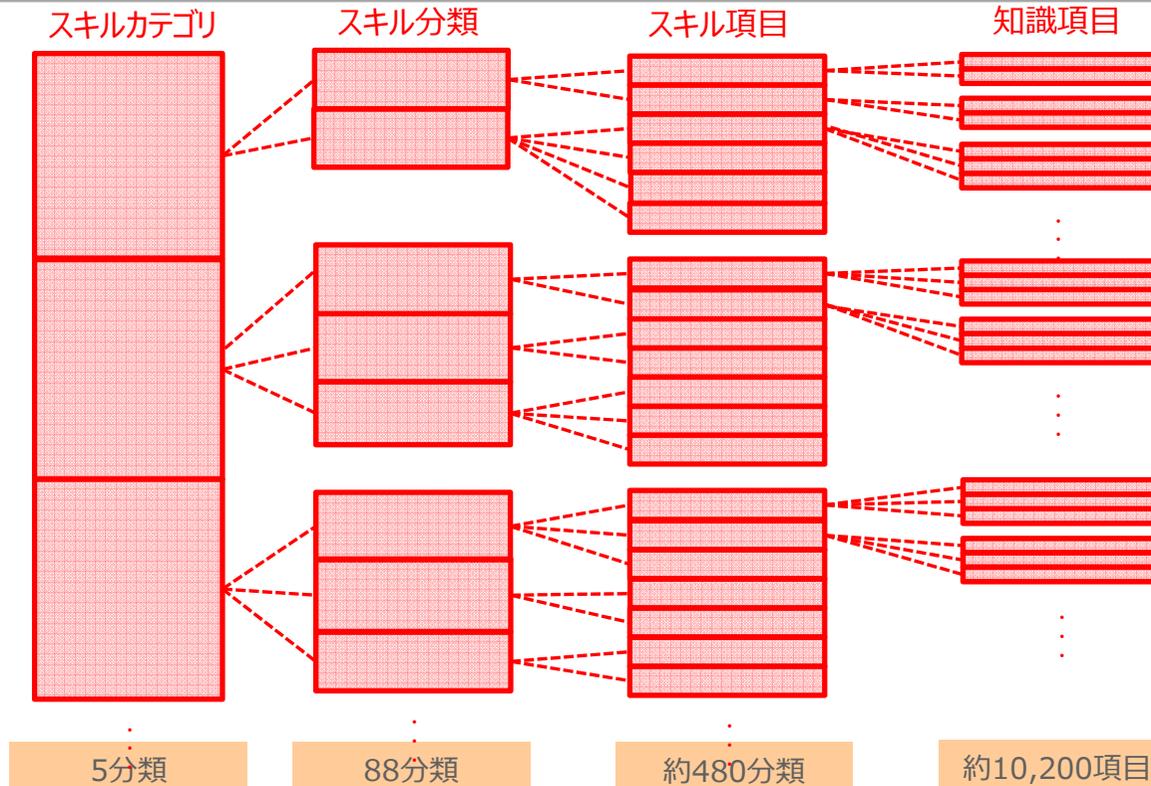
専門的な業務の役割の観点により、分割した14の専門領域。



スキルディクショナリ（1）

定義

「タスク遂行のための素養」：タスクを支える能力（スキルや知識）を体系化したもの。スキル3階層と知識項目から構成される。



参照元

参照元	小分類数	知識項目数
情報処理試験	100	723
ITSS	501	2,827
ITS	76	359
UISS	55	1,303
ETSS	46	273
J07	152	3,147
BABOK®	23	526
CBK	10	51
ITIL®	73	381
PMBOK®	10	364
REBOK®	18	112
SABOK	102	634
SQuBOK®	103	1,348
SWEBOK	52	453
SSUG	20	97
SecBoK	64	895
CAIS_BOK	12	132
合計	1,506	14,252

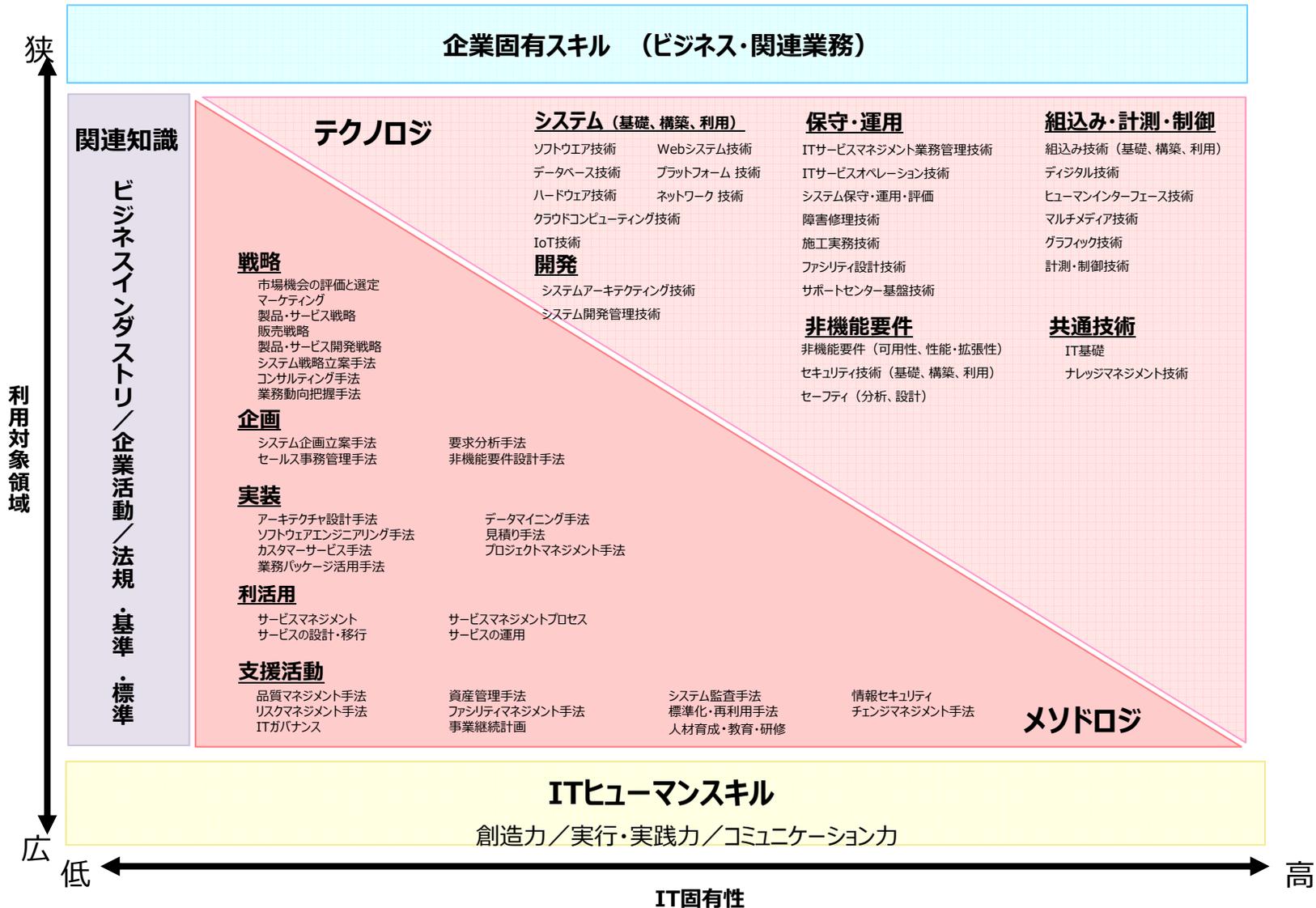
特色

- 1) IT業務に必要なスキルと知識を、主要な参照元の知識項目に基づき網羅的に構造化して提示
- 2) スキルカテゴリは、「テクノロジー」「メソドロジー」「関連知識」「ITヒューマンスキル」「企業固有スキル（ユーザ領域）」の5分類から構成
- 3) 情報処理試験「[午前の試験]出題分野」に準じた整理体系

注) 参照元より抽出した小分類、知識項目は各々の重複を整理したため、スキルディクショナリ上の数は減っている

スキルディクショナリ (2)

スキル構成図



スキルディクショナリ（3）

ITヒューマンスキルの構成： 3つの分類

実行・実践力

効果を上げるために、実行・実践環境や状況を適切に捉える能力

俯瞰力

深耕力

効果的継続の実行と新しい取り組みや新領域へ挑戦する能力

革新力

継続力

創造力

状況を認知して問題を発見し、見極め、解決案を策定する「価値創造プロセス」を着実に遂行する能力

問題発見力

問題分析力

仮説設定力

論理思考力

概念化力

複雑な状況や問題に対して、論理的思考により概念の形成、判断の構築、命題設定を行う能力

コミュニケーション力

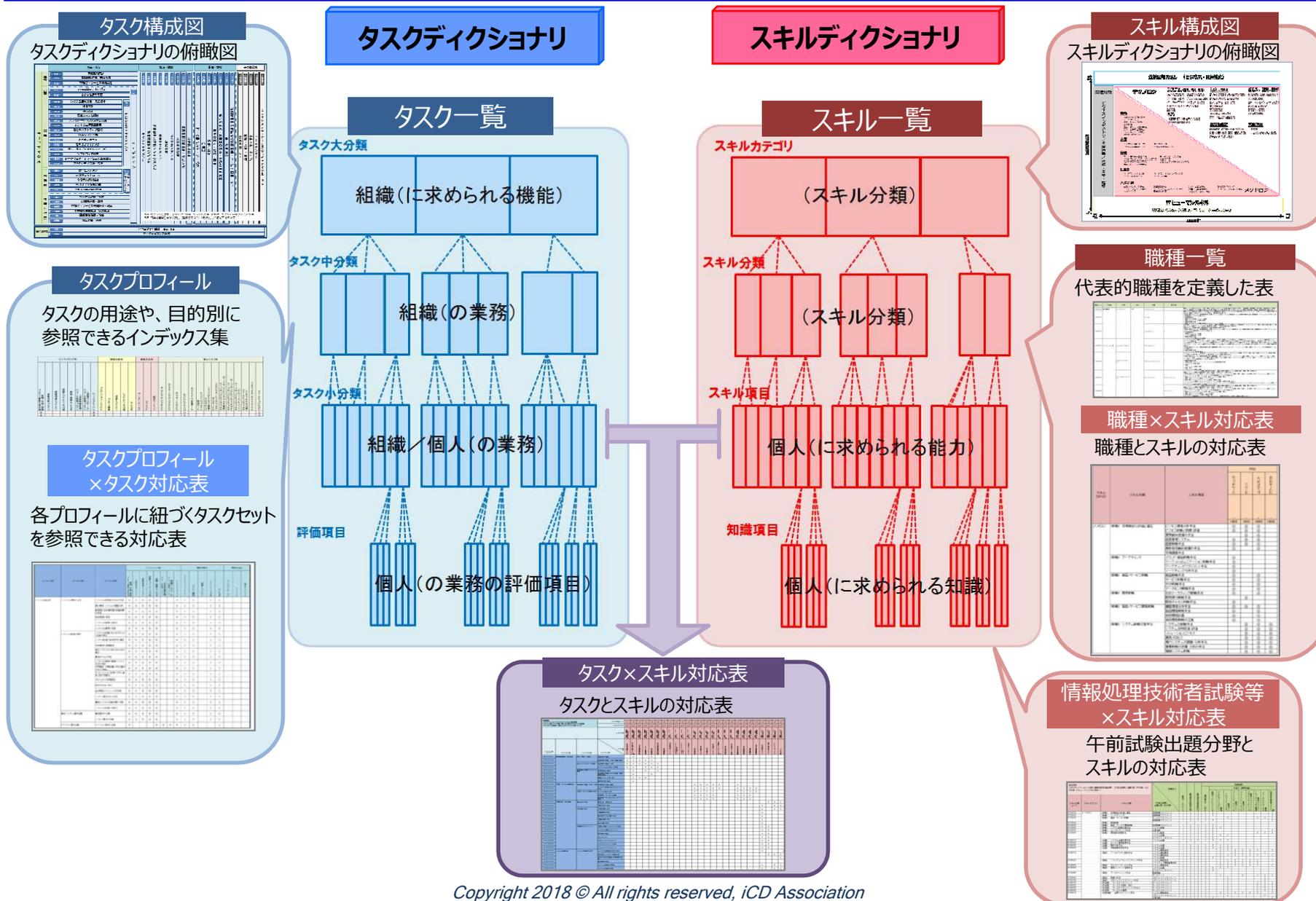
情報の獲得や更なる情報の要求や内容の確認、他者へ情報提供
他者に影響を与えたり協働への引導する能力

相手の考えを理解する力

自分の考えを伝える力

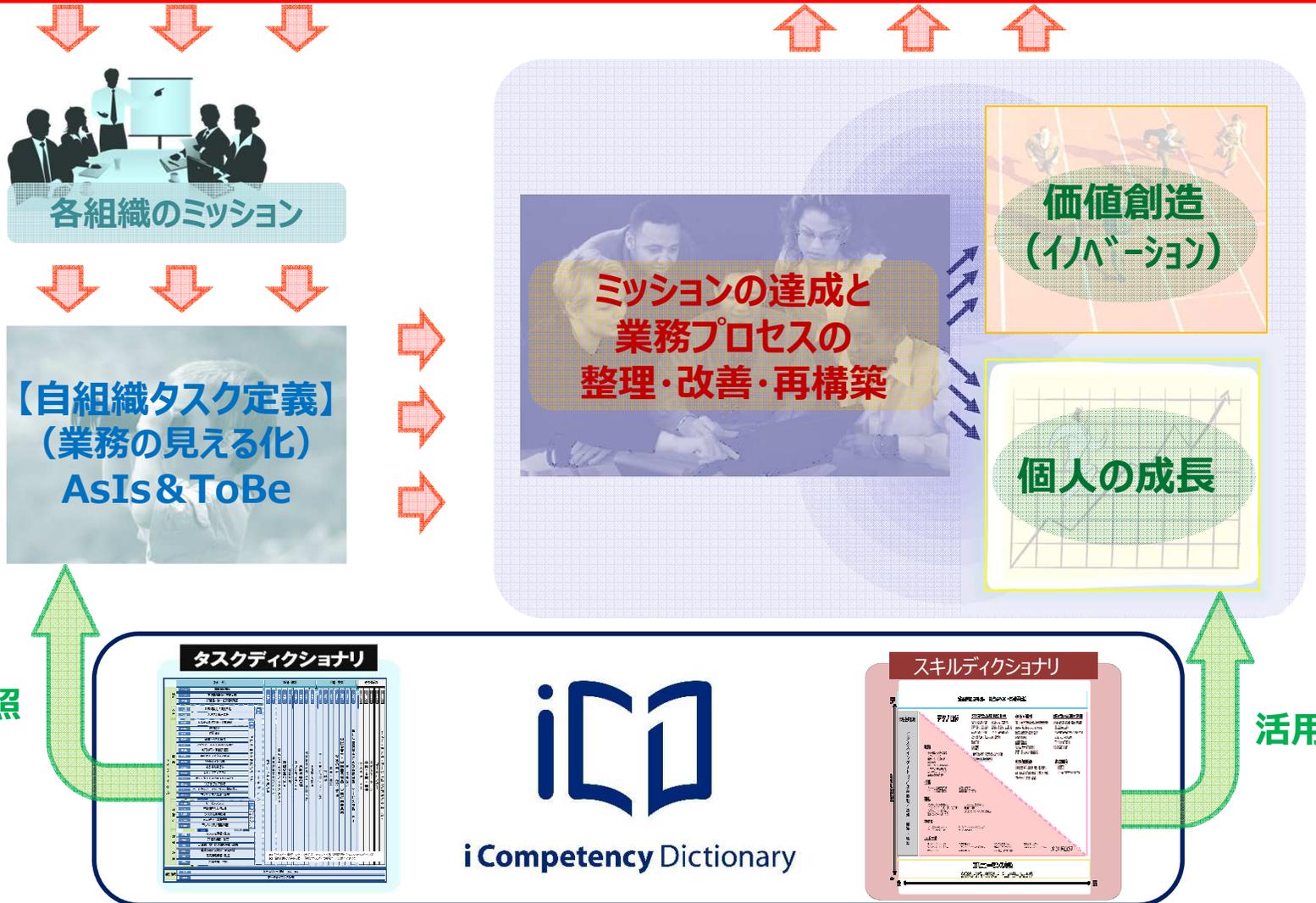
共感を呼ぶ力

i コンピテンシ ディクショナリの構成



ここまでのまとめ

自組織ビジネス目標（経営戦略）

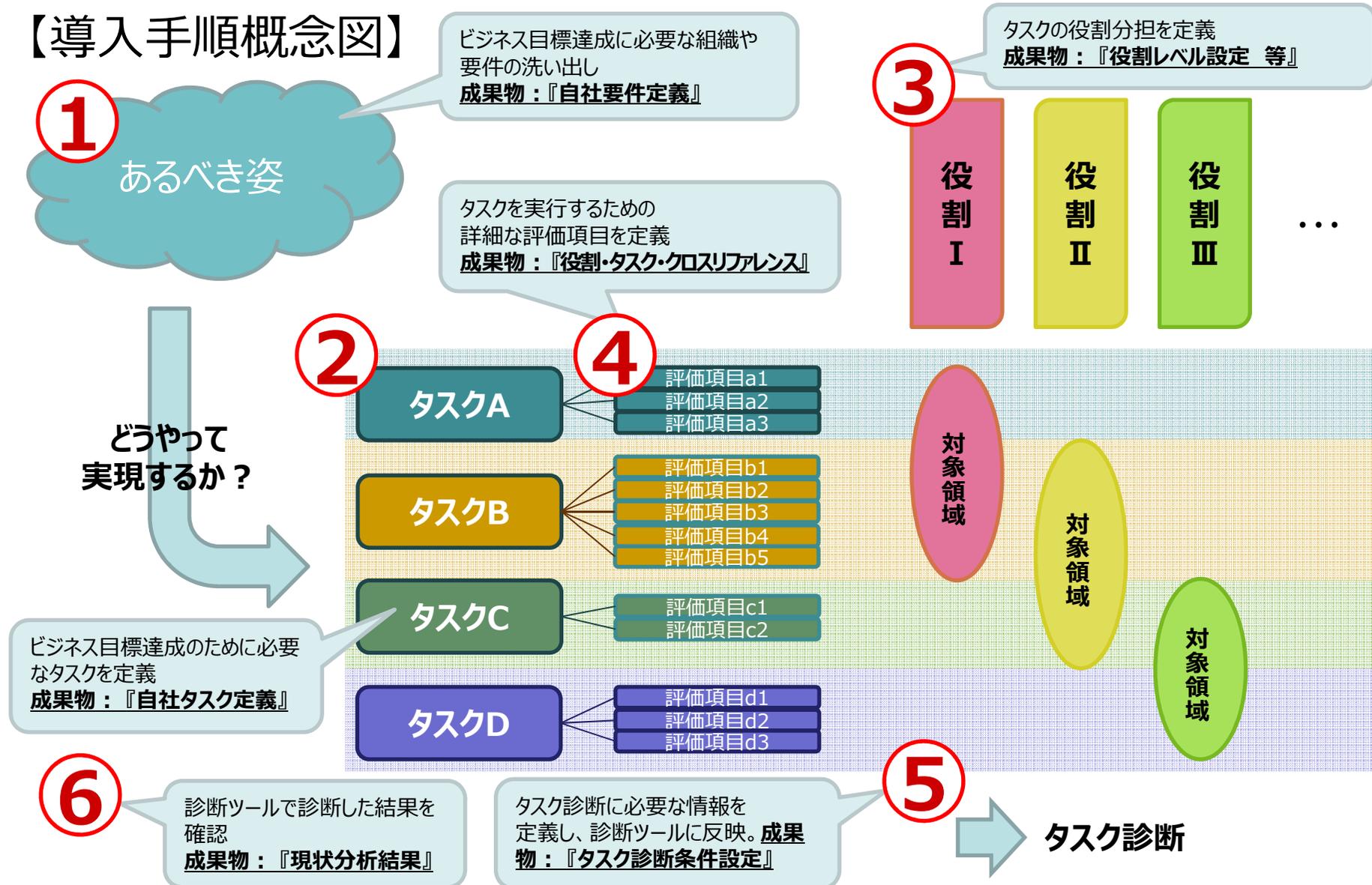


実際に使ってみていただきました！

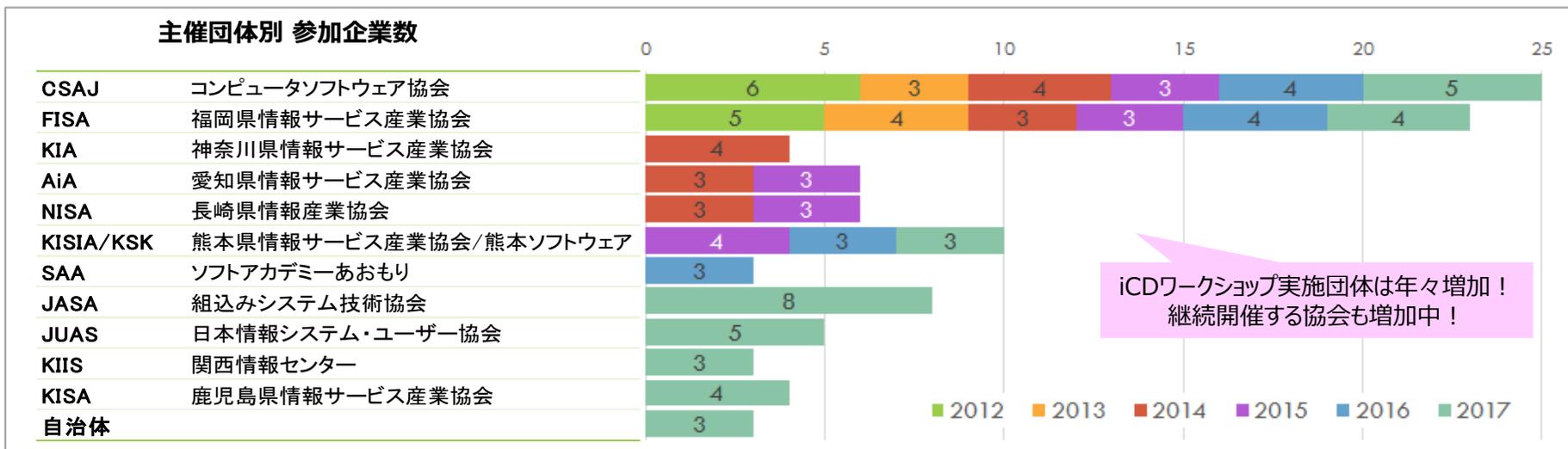
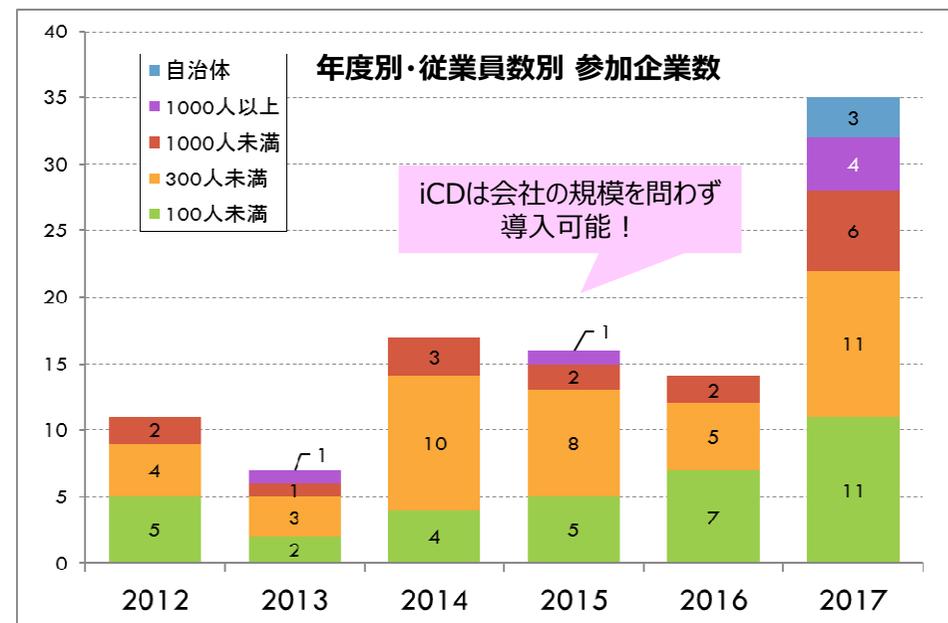
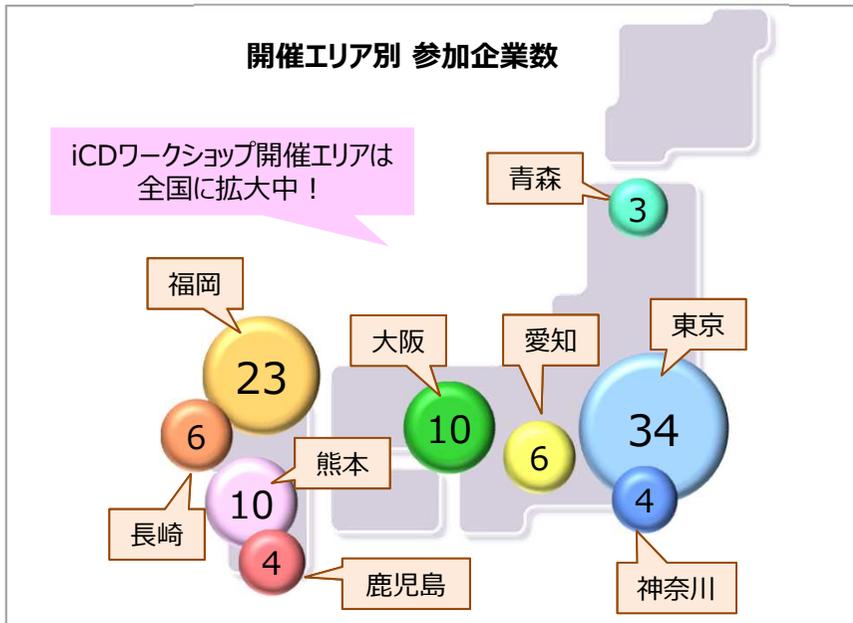
～iCD活用ワークショップによる実証実験



【導入手順概念図】



iCDワークショップ 開催実績

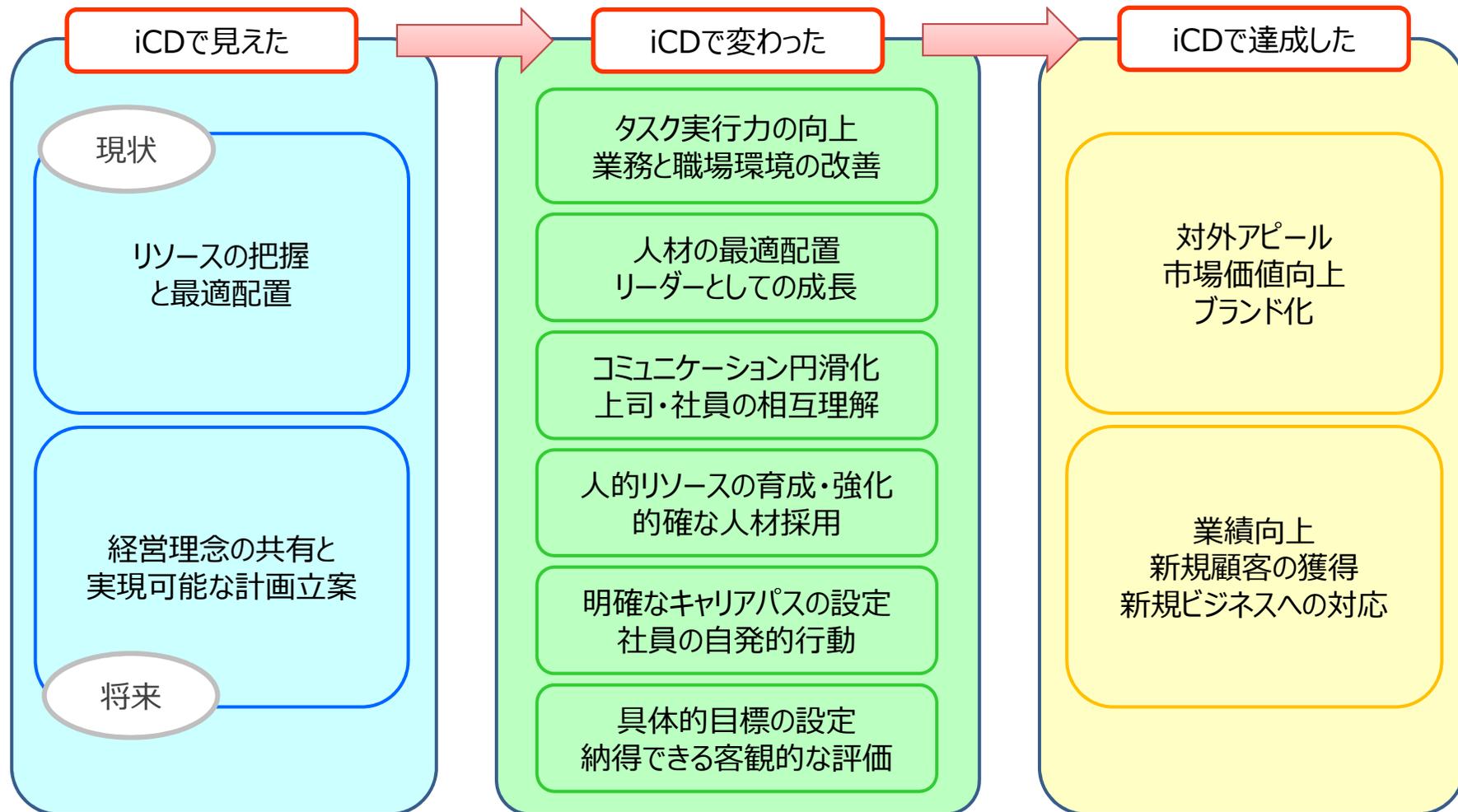


ワークショップ参加企業

協会	名称	人数	認証	WS実施年	地域
CSAU	オープンストリーム	119	GOLD★	2012	東京
	日本システム開発	150	GOLD★	2013	
	創研情報	83	GOLD★	2015	
	ジャパンシステム	591	Silver Plus	2014	
	大和コンピューター	213	Silver Plus	2014	
	インテリジェントウェイブ	268	Silver	2012・2014	
	TOKAIコミュニケーションズ	1,136	Silver	2013	
	オー・エイ・エス	252	Silver	2013・2017	
	PCIソリューションズ	800	Silver	2014	
	IPイノベーションズ	30	Silver	2016	
	システムリサーチ	820	Silver	2016	
	フォーラムエイト	244	Silver	2016	
	メノックス	150	Silver	2016	
	アールワークス	61		2012	
	オービックBC	604		2012	
	オデッセイヒューマンシステム	47		2012	
	ビーエスシー	436		2012	
	アルゴグラフィックス	470		2015	
	日本郵政インフォメーションテクノロジー	175		2015	
	サクサ	426		2017	
シー・シー・ダブル	150		2017		
テクノプレーン	60		2017		
日本ナレッジ	209		2017		
FSA	テクノスクエア	30	GOLD★	2012	福岡
	西部ガス情報システム	155	GOLD★	2012・2016	
	ヒューマンテクノシステム	160	GOLD★	2014	
	ユニティ・ソフト	25	Silver Plus	2012	
	西日本コンピュータ	100	Silver Plus	2012	
	テクノ・カルチャー・システム	200	Silver Plus	2013	
	FCCテクノ	179	Silver Plus	2015	
	TIS西日本	151	Silver Plus	2015	
	グローバルブレインズ	80	Silver	2012	
	BCC	346	Silver	2013	
	マイクロコート	53	Silver	2013・2016	
	日本システムスタディ	70	Silver	2013	
	ICTコンストラクション	50	Silver	2014	
	九州NSソリューションズ西日本	282	Silver	2014	
	Gcomホールディングス	460	Silver	2015	
	サン情報サービス	101	Silver	2016	
	九州シー・アンド・シーシステムズ	20	Silver	2016	
	TOTOインフォム	278		2017	
	ワイズ・コンピュータ・クリエイツ	44		2017	
	西鉄情報システム	150		2017	
麻生情報ビジネス専門学校	46		2017		
KIA	アイ・ビー・エル	50	GOLD★	2014	神奈川
	ジェイエスピー	107	Silver Plus	2014	
	データプロセスサービス	107	Silver Plus	2014	
	ソフトেম	111	Silver	2014	

協会	名称	人数	認証	WS実施年	地域
AIA	CMC Solutions	122	GOLD★	2014	愛知
	旭情報サービス	1,404	GOLD★	2015	
	テクノフュージョン	18	Silver Plus	2014	
	サンテック	67	Silver Plus	2015	
	ソフトテックス	211	Silver	2014	
NISA	東邦ガス情報システム	166		2015	長崎
	オフィスメーション	73	Silver Plus	2014	
	不動産研工業	322	Silver Plus	2014	
	NDKCOM	105	Silver	2014	
	NBC情報システム	130	Silver	2015	
KISIA/KSK	イシマル	169	Silver	2015	熊本
	扇精光	209	Silver	2015	
	ソフトウェアビジョン	81	Silver Plus	2015	
	マインドソフトウェア	64	Silver Plus	2015	
	九州ソフトタス	68	Silver Plus	2015	
SAA	電盛社	282	Silver	2015	青森
	システムサイエンス	22	Silver	2016	
	熊本ソフトウェア	20	Silver	2016	
	熊本計算センター	215	Silver	2016	
	KIS	280		2017	
JASA	ナトーコンピュータ	118		2017	東京
	熊本県ソフトウェア事業協同組合	170		2017	
	サン・コンピュータ	77	Silver	2016	
	ソフトアカデミーあおもり	50	Silver	2016	
	青森電子計算センター	353	Silver	2016	
JUAS	アンドールシステムサポート	55		2017	大阪
	エンベックスエデュケーション	67		2017	
	セントラル情報センター	284		2017	
	日本システム開発	358		2017	
	Bee	21		2017	
KIIS	コミュニケーション・テクノロジー	10		2017	大阪
	システムプランニング	20		2017	
	日新システムズ	212		2017	
	電源開発	2,398		2017	
	AJS	556		2017	
KISA	JFEシステムズ	1,535		2017	東京
	MS&ADシステムズ	1,457		2017	
	NHKメディアテクノロジー	1,238		2017	
	セイノー情報サービス	422		2017	
	イー・サポート	40		2017	
自治体	クボタシステムズ	557		2017	大阪
	ARS	47		2017	
	ソフト流通センター	113		2017	
	南国システムサービス	48		2017	
	南日本情報処理センター	396		2017	
自治体	堺市	-		2017	大阪
	大阪市	-		2017	
	大阪府	-		2017	

活用企業“生の声”～iCD活用で達成した10の成果

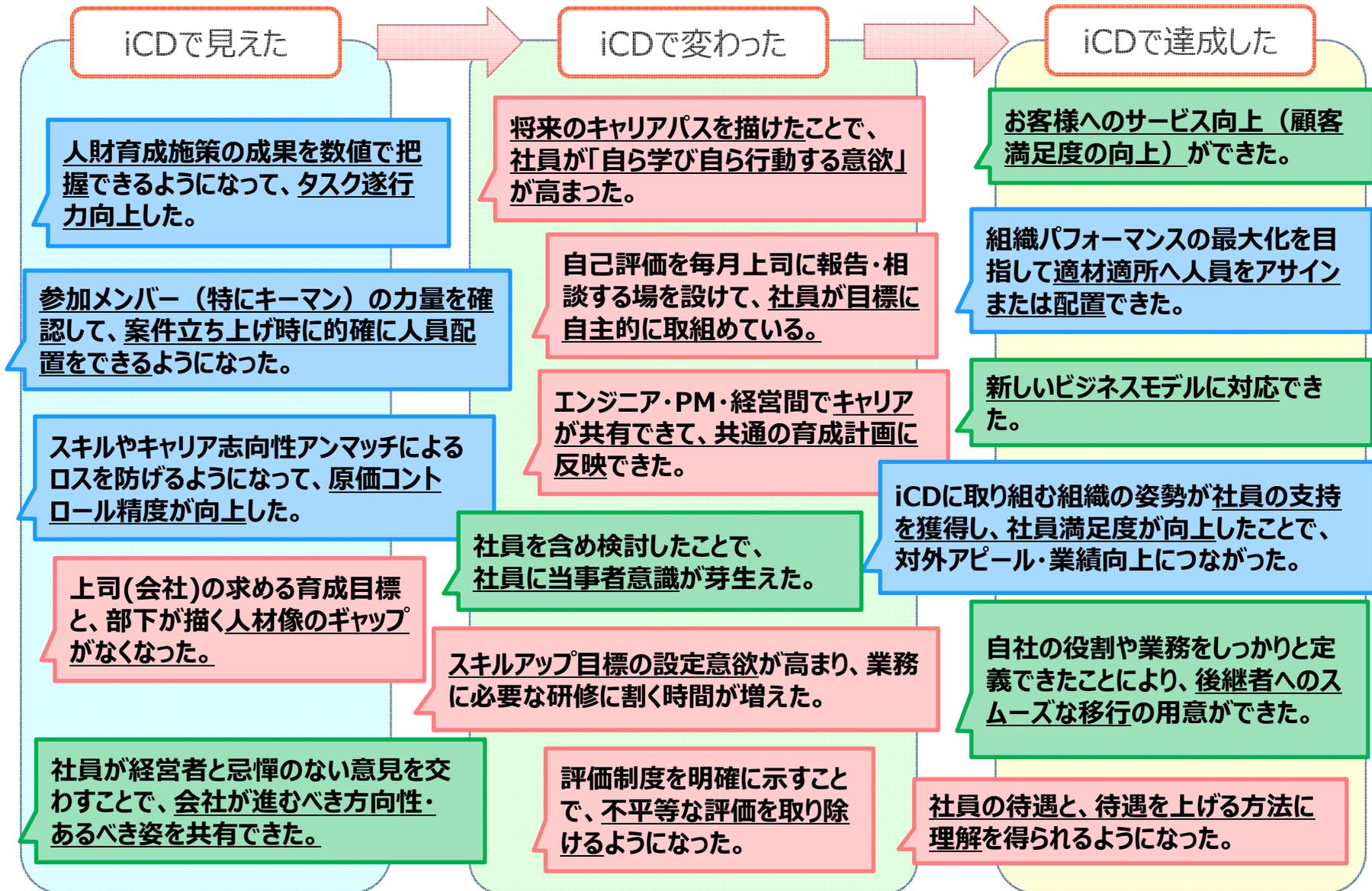


活用企業“生の声”～成果別分布(2017年)

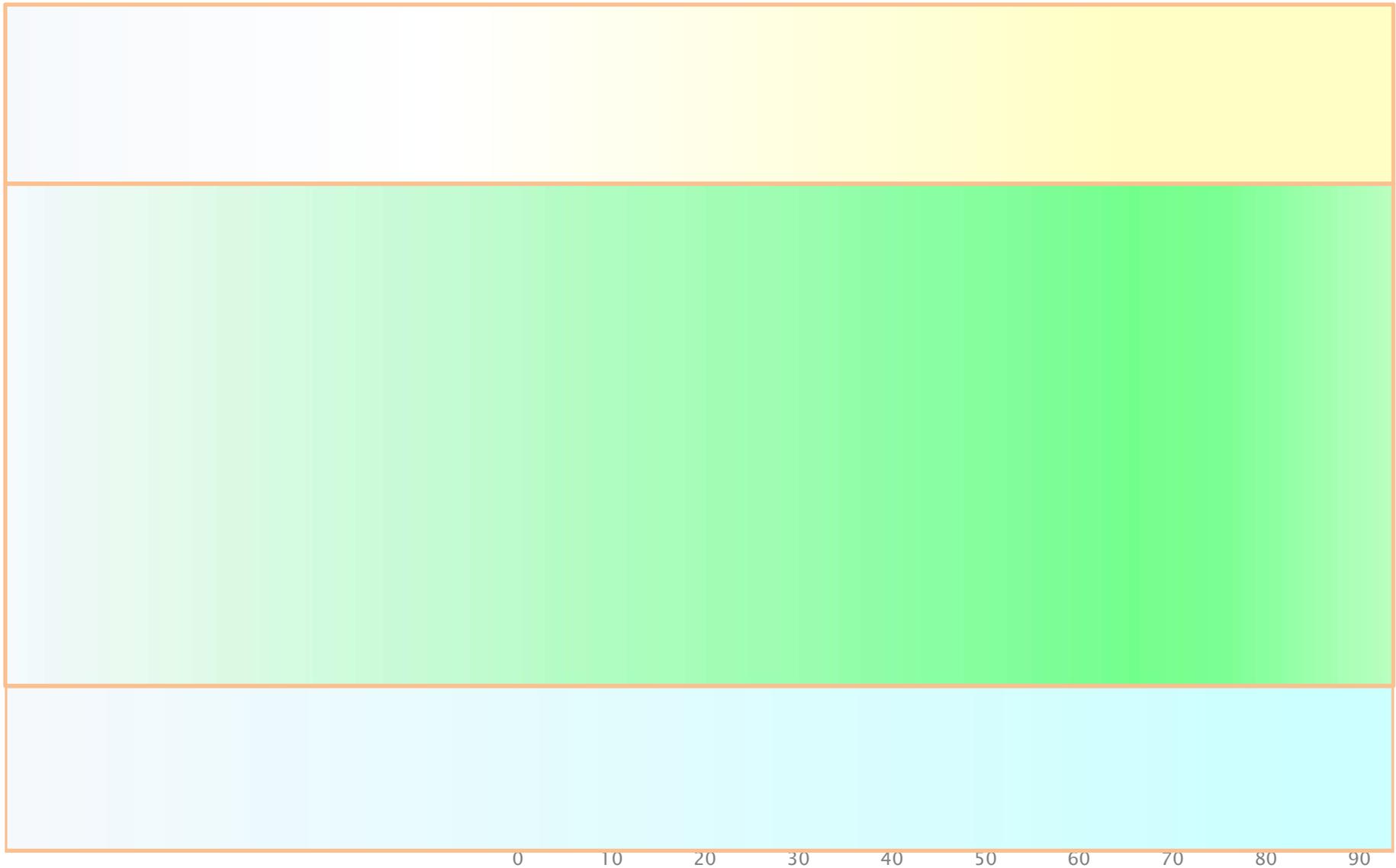


■ 社員の声 ■ リーダー層の声 ■ 経営層の声

活用企業“生の声”～実際の記述から(2017)



【参考】今後の目標を追加した分布



iCD活用企業認証の開始について

iCD活用企業認証の概要①

認証レベルのイメージ



iCD活用企業認証の概要②

「エントリー・シート」

iCD活用エントリー・シート

■企業情報

Q1. 企業情報を記入してください。

会社名：

所在地：

所属部署：

役職：

氏名：

メールアドレス：

電話番号：

Q2. iCDの活用を検討されていますか。

検討を開始している 検討を予定している 検討していない(予定もない)

Q3. 上記の欄で「検討を開始している」、「検討を予定している」とお答えいただいた方にお聞きします。

検討開始時期(予定)を記入してください。

年 月 日

※：ITSS, UTSS, ETSS, CCSP の活用を含む。

※「iCD活用エントリー・シート」は、14項目の設問に回答

「iCD活用カルテ」

iCD活用カルテ

■iCD取り組み効果

Q1. iCD活用の具体的な効果(実績)と、今後予定している効果(目標)をお聞かせください。
(記入方法については、別紙の記入例をご参照ください。)

経営戦略の達成とイノベーションを呼ぶ会社組織の構築

経営

社員(個人)

組織リーダー

自己実現と組織貢献による満足度向上

強いチーム作りと組織ミッションの達成

○：成果のあった項目(実績) ：今後成果を予定している項目(目標)

<iCD活用カルテの記入方法>

- 「効果のあった項目」は、別紙で記載してください。
- 「今後効果を予定している項目」は、点線で記載してください。
- 効果は、「経営と組織」「組織と個人」の両方に、複数の視点にわたっても構いません。
- 上記に記載した効果項目の詳細内容については、次ページ以降に記載してください。

※1：ITSS, UTSS, ETSS, CCSP の活用を含む。

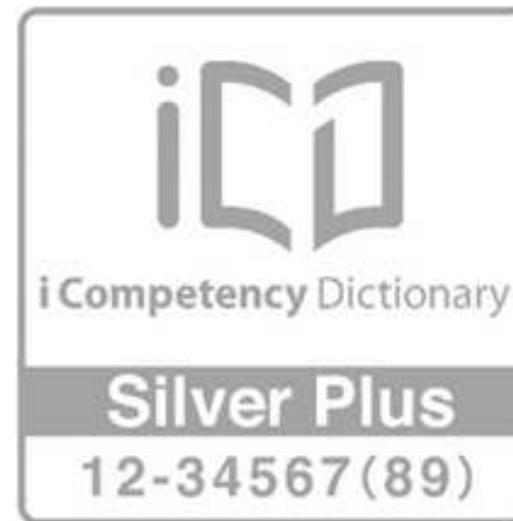
※「iCD活用カルテ」は、29項目の設問に回答

iCD Blue



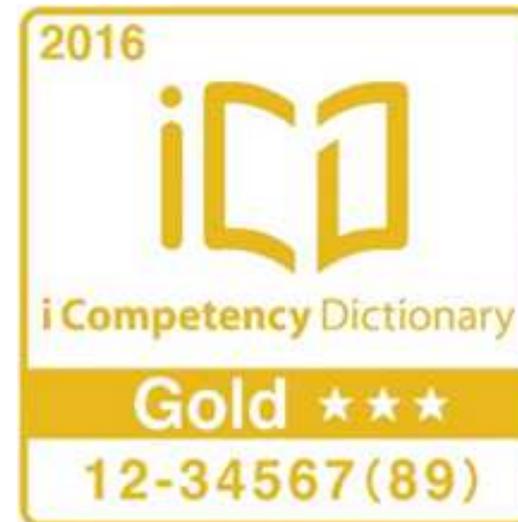
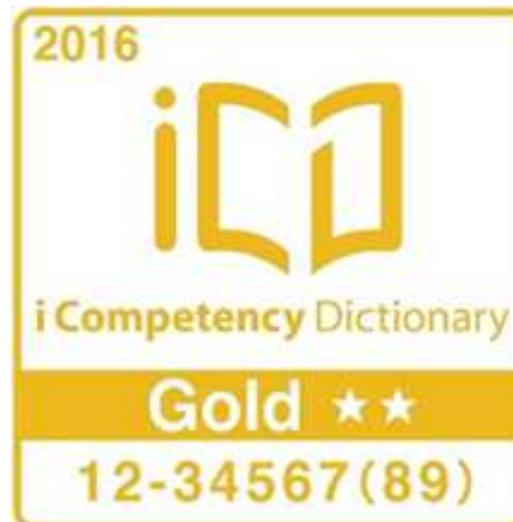
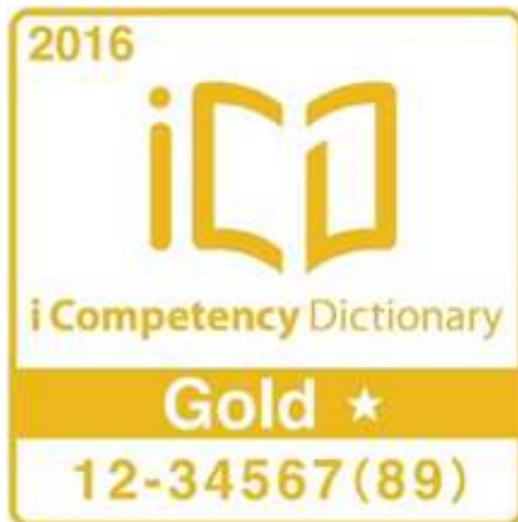
- アンケートにチェックいただくと、後日発行されます。
- 講演会の聴講等により、iCDについての知識があり、かつ、自社で活用したいという意向があれば、どなたでも取得可能です
- IPAが開設する「iCDオフィシャルサイト」に会社名が掲載されます（希望する場合）

iCD Silver、iCD Silver Plus



- iCDを具体的に活用し始めた企業を認証します
- 所定のフォーマットの“活用カルテ”に記入し、エントリーします。
3団体の審査により、活用が認められれば発行されます。
- iCDを活用した人材育成施策の実行等、定期的な運用に入っていれば、
iCD Silver Plusとして認証されます
- IPAが開設する「iCDオフィシャルサイト」に会社名とともにiCDの活用状況
(Silverは1社1ページ、Silver Plusは1社数ページ) が掲載されます (希望する場合)

iCD Gold (★～★★★)



- iCDを活用し具体的な成果が出ている企業を認証します
- 所定のフォーマットの“活用カルテ”（iCD Sliverと共通）に記入し、エントリーします
3団体の審査により、成果が認められれば発行されます
- 成果の内容や、活用期間などの運用状況により、★の数が増えます
- IPAが開設する「iCDオフィシャルサイト」に会社名とともにiCDの活用状況、
成果（1社数ページ）が掲載されます（希望する場合）

iCD活用企業認証 2016/4/19プレス発表

- 「iCD (i コンピテンシ デイクショナリ) 活用企業認証制度 3団体が 認証企業名を公表」
 - 40以上のメディアで掲載

2017/12/15 認証企業合計 1,060社に！

認証レベル別認証企業社数 (2017年12月15日 現在)	
Gold★★	3社
Gold★	20社
Silver Plus	24社
Silver	41社
Blue	972社

iCD (i コンピテンシ デイクショナリ) 活用企業認証制度 3団体が認証企業名を公表



一般社団法人コンピュータソフトウェア協会 既に461社を認証済み

一般社団法人コンピュータソフトウェア協会 (略称「CSAJ」、東京都港区)、特定非営利活動法人 スキル標準ユーザー協会 (略称「SSUG」、東京都千代田区)、一般社団法人福岡県情報サービス産業協会 (略称「FISA」、福岡県福岡市) の3団体は、昨年末より開始したiCD (i コンピテンシ デイクショナリ) 活用企業認証制度における認証企業名を4月19日に公表しました。

「i コンピテンシ デイクショナリ」(以下、iCD) は、独立行政法人情報処理推進機構 (略称「IPA」、東京都文京区) が、企業においてITを活用するビジネスに求められる業務と、それを支えるIT人材の能力や知識を、それぞれ「タスクデイクショナリ」、「スキルデイクショナリ」として体系化したものです。企業は経営戦略や事業計画など、目的に応じた人材育成の仕組み作りに活用することができます。

これまで3団体は、主に会員企業を対象としてiCDを活用した人材育成の仕組み作りの支援を行ってまいりました。支援活動の結果、iCDの高い有効性を実証することができました。今後はさらに全国に向けて普及促進を図るため、昨年12月よりiCDの活用に取り組んでいる企業を対象に「iCD活用企業認証制度」を、スタートしています。

今回公表された認証企業は、IPAの支援のもと、iCDを推進している3団体で構成された認証審査委員会により認証されています。

- 認証レベル別認証企業社数
 - ・ Gold★★ (ダブルスター) 3社
 - ・ Gold★ (スター) 11社
 - ・ Silver Plus 17社
 - ・ Silver 29社
 - ・ Blue 401社

認証企業名につきましては、以下の資料をご参照ください。

**産経ニュース
2016/04/19より**

iCDオフィシャルサイトの認証企業掲載ページ



ICDオフィシャルサイト

ICDができること 各社の取組み ICDとは イベント・セミナー・お知らせ ICD関連団体の活動

ホーム > 各社の取組み

各社の取組み

iCD活用企業認証

iCD活用企業認証の概要

iCD活用企業認証では、企業でのiCDの活用レベルや成果の大きさに応じて認証レベルを用意しています。認証レベルは、iCD Blue、Silver、Silver Plus、Gold★、Gold★★、Gold★★★の5段階となります。

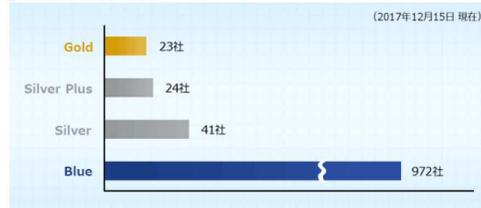


本認証制度は、

- 「特定非営利活動法人スキル標準ユーザー協会 (SSUG)」
- 「一般社団法人コンピュータソフトウェア協会 (CSA)」
- 「一般社団法人情報通信サービス産業協会 (FISA)」

の3団体により運営されています。制度の詳細や認証のお申し込みに関しましては、3団体のホームページにてご確認ください。

iCD活用企業認証の状況



- 各社の取組み
- > Gold 認証企業一覧
- > Silver Plus 認証企業一覧
- > Silver 認証企業一覧
- > Blue 認証企業一覧

iCDブログ公開中！
iCDに関する情報を
お伝えします。

おすすめ
コンテンツの
ご案内

説明会開催



ICDオフィシャルサイト

ICDができること 各社の取組み ICDとは イベント・セミナー・お知らせ ICD関連団体の活動

ホーム > 各社の取組み > Gold 認証企業一覧

Gold 認証企業一覧

「iCD活用企業認証制度」Gold 認証企業一覧

認証取得企業・団体数：23 (2017年9月1日現在)

導入の効果の見方

視点	効果あり	効果を予定
経営	●	■
組織リーダー	●	■
社員(個人)	●	■

●または■の数は、それぞれの項目数

★★★ トリプルスター認証企業

認証取得企業・団体はありません。

★★ ダブルスター認証企業 (認証取得企業・団体数：3)

認証番号	企業・団体名称 (所在地/申請団体)	導入の効果	詳細
	サントリー株式会社学テック/ロビー株式会社 (大阪府大阪市 / SSUG)	●●●●● ●●●●●	▶ PDF
	セイコーエプソン株式会社 (長野県諏訪市 / SSUG)	●●●●● ●●●●●	▶ PDF
	株式会社日本コンピュータシステムズ (神奈川県横浜市 / SSUG)	●●●●● ●●●●●	▶ PDF

(上記以外の非公開：D社)

- 各社の取組み
- > Gold 認証企業一覧
- > Silver Plus 認証企業一覧
- > Silver 認証企業一覧
- > Blue 認証企業一覧

iCDブログ公開中！
iCDに関する情報を
お伝えします。

おすすめ
コンテンツの
ご案内

説明会開催

IPAオフィシャルサイト > 各社の取組み
<https://icd.ipa.go.jp/icd/company>

i コンピテンシ ディクショナリに関する情報

① iCD2017公開

	項目	変更点
タスクディクショナリ	UIデザイン	新規追加
	IoTシステム・サービスのライフサイクル	新規追加
	コールセンター	新規追加
	事業継続マネジメント	強化
	セキュリティ領域*	新規追加
	データサイエンス領域*	新規追加
スキルディクショナリ	IoT技術に関するスキル・知識	新規追加
	セーフティに関するスキル・知識	新規追加

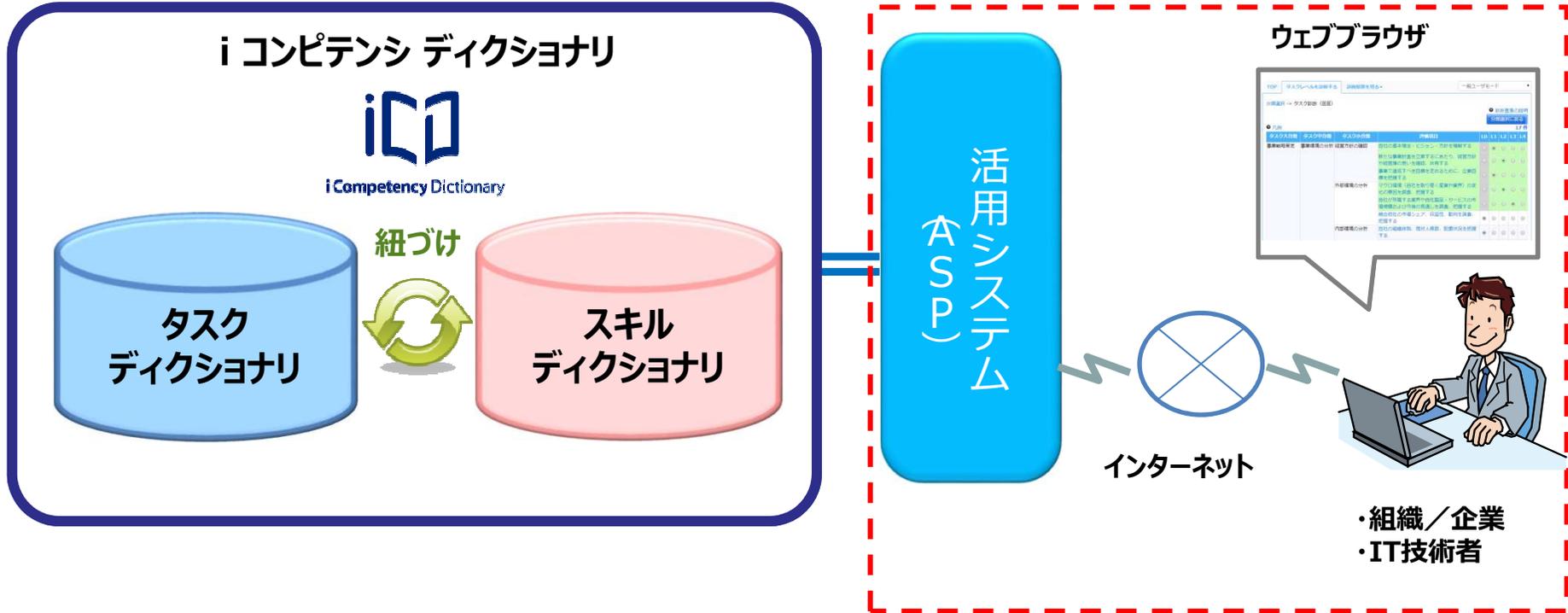
* 2017/4/7に発表したITSS+の対応

② iCD活用システム バージョンアップ

③ iCDオフィシャルサイト バージョンアップ

i コンピテンシ ディクショナリ (iCD) と「iCD活用システム」

◇ 企業の目的に応じた人材育成に利用できる「iCD活用システム」



iCD活用システム2017対応	新たに追加した主な機能
iCD活用システム【タスク編】	研修・書籍・資格情報管理機能の追加 - 研修・書籍・資格の検索機能 - 自組織の研修・書籍・資格の登録機能
iCD活用システム【スキル編】	研修・書籍・資格関報検索機能の追加

iCDに関するポータルサイト「iCDオフィシャルサイト」

iCDに関する情報を集約したサイト

IT人材育成に関する最新動向やセミナー情報も掲載

掲載情報

iCD初心者向けの説明や活用方法
実際に活用している企業の事例
iCDと連係した研修・資格情報
iCD活用企業認証制度の紹介
イベント・セミナー情報
などなど



<https://icd.ipa.go.jp>



iCDと研修・書籍・資格との関係情報提供

iCDでレベルを上げるときに、必要な研修・資格等が検索可能

～ 研修、書籍、資格とタスク・スキルとの関係情報を提供

iCD活用システム

- タスクやスキルを選択すると、紐づく研修・書籍・資格を表示
- 研修・書籍・資格の情報が検索可能

システム企画立案 > 情報セキュリティ要件定義 > 情報セキュリティ要件の定義

タスク大分類	タスク中分類	タスク小分類	評価項目	診断メ テ
システム企画立案	情報セキュリティ要件定義	情報セキュリティ要件の定義	セキュリティポリシーやコンプライアンス、情報保証上の必要性を情報セキュリティ要件に反映させる	L0:
			実装すべき情報セキュリティの要件（障害発生時の復旧時間の許容時間、データ復旧範囲等、障害対応に関する要件を含む）、実施レベル、考慮点を明らかにする	L0:
			各々の情報セキュリティ要件に対する実装方法を提示する	L0:
			情報セキュリティ要件を実現するための費用を算出する	L0:
			システムに存在する脆弱性について、その対策と緩和のための取り組みの方針を決定する（アプリケーションの可用性維持からパッチを適用しない場合の対策等を含む）	L0:
			情報セキュリティ要件に関する制約事項を抽出する	L0:

▼関連研修・書籍情報

※（）で表記したレベルは、上位（タスク中分類）での評価を示す。

主催	名称	研修・書籍レベル	区分	詳細
株式会社アイテック				
株式会社インフォテック・サーブ				
株式会社ウチダ人材開発センター				
株式会社日立インフォメーションアカデミー				
株式会社富士通ラーニングメディア				

▼関連資格情報

※（）で表記したレベルは、上位（タスク中分類）での評価を示す。

主催	名称	資格レベル	区分	詳細
独立行政法人情報処理推進機構				
株式会社サーティファイ				

iCD公式サイト

- タスクやスキルと、研修・書籍・資格との関係情報が検索可能

研修・書籍・資格との関係

iCDはさまざまな研修・書籍・資格と関係

iCDは、研修・資格事業全体の協力のもと、関係情報を提供しています。関係情報では、「研修を受講する」「資格を取得する」などにおいて、iCDのどのタスクやスキルのレベルアップが期待できるかを知らることができます。

タスクディクショナリから関係情報を参照する

- タスクから検索
- タスクプロフィールから検索

スキルディクショナリから関係情報を参照する

- スキルから検索
- 職種から検索

iCDとは

- iCDは評価
- タスクディクショナリ
- スキルディクショナリ
- iCDの使い方
- iCD活用システム
- 研修・書籍・資格との関係
- 3スキル標準とiCD
- ダウンロード

iCDブログ公開中!

iCDに関する最新情報をお届けします。

おすすめコンテンツのご案内

説明会開催

iCDと研修・資格との関係情報提供



iコンピテンシ ディクショナリ 2017 研修・書籍・資格関係情報 提供事業者一覧 (2017/06/20)

提供事業者名	研修	書籍	資格
独立行政法人情報処理推進機構	-	一般書籍、論文・報告書	国家資格・認定
アイスタディ株式会社	eラーニング	-	-
株式会社アイテック	集合研修、eラーニング、 資格・認定対策研修	一般書籍、テキスト・教材	-
麻生教育サービス株式会社	集合研修	-	-
株式会社インフォテック・サブ	集合研修	一般書籍	-
株式会社ウチダ人材開発センタ	集合研修、eラーニング	一般書籍、テキスト・教材	-
株式会社サーティファイ	-	-	その他の資格・認定
株式会社NOWVILLAGE	集合研修	-	-
株式会社日立インフォメーションアカデミー	集合研修、eラーニング	-	-
株式会社福岡ソフトウェアセンター	集合研修	-	-
株式会社富士通ラーニングメディア	集合研修、eラーニング	-	-
JSTQB	-	-	その他の資格・認定
株式会社アシスト	集合研修	一般書籍、テキスト・教材	-
芝大門塾/株式会社 東芝OAコンサルタント	集合研修	-	-
NECマネジメントパートナー株式会社	集合研修、eラーニング	-	-
一般社団法人 組込みシステム技術協会	-	-	その他の資格・認定
株式会社ワーク・スタイル	eラーニング	-	-

※iCD2017公開以降、以下の2事業者を追加
株式会社ジェイテックスマネジメントセンター、一般社団法人 日本情報システム・ユーザー協会

iCD ダウンロード可能な情報

- iCD公式サイト、IPAサイトよりダウンロード可能です
 - － ディクショナリ
 - タスクディクショナリ、スキルディクショナリ
 - － ディクショナリ利用を補助するツール
 - タスクプロフィール、タスクプロフィール×タスク対応表、タスク評価の診断基準例
 - 職種一覧、職種×スキル対応表、スキル熟達度判定基準
 - 情報処理技術者試験等×スキル対応表
 - － 関係情報
 - ディクショナリ間関係（タスク×スキル対応表）
 - － 使い方
 - 解説書
 - － CSVデータ
 - データセット
 - － 人材別タスク・スキル
 - IT融合人材、情報セキュリティ人材
 - 営業業務、総務・人事・経理、エデュケーション
 - コールセンター、IoTシステム・サービスのライフサイクル
 - セキュリティ領域、データサイエンス領域
 - － 英訳版
 - タスクディクショナリ（第2階層まで）、スキルディクショナリ（第2階層まで）
 - － iCDロゴ、iCD-FAQ、研修・書籍・資格との関係情報に関するガイドライン

※以下はお申し込みにて利用できます。
「iCD活用システム（タスク編）」
「iCD活用システム（スキル編）」
iCD活用システム（ダウンロード版）
「英訳版（第4階層まで）」

英訳版
iCD2016対応
2017/4/12 公開！

iCD海外連携状況

iCDグローバル展開は、様々なコラボレーション活動を通じて進んでいます



- コラボレーションを行っている団体 ⇒10団体
- iCDを利活用している国 ⇒28カ国
- iCD活用システムを利活用している国 ⇒1カ国

コラボレーション活動を行っている海外団体

ご清聴ありがとうございました

- IPA **iCDオフィシャルサイト**
URL: <http://icd.ipa.go.jp/icd/>
- IPA **HRDイニシアティブセンター ホームページ**
URL: <http://www.ipa.go.jp/jinzai/hrd/index.html>
- IPA **i コンピテンシ ディクショナリ ページ**
URL: https://www.ipa.go.jp/jinzai/hrd/i_competency_dictionary/index.html
- IPA **i コンピテンシ ディクショナリ ダウンロードページ**
URL: http://www.ipa.go.jp/jinzai/hrd/i_competency_dictionary/download.html
- IPA **i コンピテンシ ディクショナリ 活用システムページ**
URL: https://www.ipa.go.jp/jinzai/hrd/i_competency_dictionary/system.html